

和仏法律学校講義録

松岡, 義正 / 島田, 鐵吉 / 遠藤, 忠次 / 掛下, 重次郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

1

(号 / Number)

号外の8

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1901-05-20

和佛法律學校

講義錄

第一部

民法親族
(自三四五至三八四) 法律學士 掛下重次郎

民事訴訟法第二編
(自二四七至二五八) 法律學士 遠藤忠次

民事訴訟法
(自八六至一五三) 法律學士 松岡義正

號外之八

戶籍
(自一五三至一八) 法律學士 島田鐵吉



090
1900
1-2-8

ヲ然レトモ調査ノ終了及ヒ目録ノ調製ニ付キ制限ヲ設ケサルトキハ後見人カ
之ヲ等閑ニ付スヘキ恐アルヲ以テ之ヲ一ヶ月内ニ爲スコトヲ要ストシタリ但
シ財産カ夥多ナルカ又ハ遠隔ノ地ニ散在スルカ其他正當ナル理由アリテ一
月内ニ其調査ヲ終ルコト能ハサル場合ニ於テハ此期間ハ親族會ニ於テ伸長ス
ルコトヲ得ルモノトセリ
財産ノ調査ハ後見人カ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ許サス之ヲ調査スルニハ必ス後
見監督人ノ立會アルヲ要ス若シ後見人カ其立會ナクシテ調査ヲ爲シタルトキ
ハ其效ナキモノトセリ蓋シ財産ノ調査ハ被後見人ノ財産ヲ明確ニスルカ爲メ
ニ爲スモノナレハ後見人カ恣ニ之ヲ調査スルコトヲ許ストキハ或ハ不正ノ目
録ヲ調製シテ財産ヲ私スルノ恐アリ或ハ調査疎漏ニシテ財産ノ脱漏スル恐ア
ルヲ以テ以上ノ如ク規定セタル所以ナリ
後見人カ右法律ノ規定ニ從ヒ財産ヲ調査シ其目録ヲ調製セザルトキハ如何ナ
ル制裁ヲ加スヘキ哉右ノ如キ場合ニ特別ノ制裁ヲ付セス唯其過失懈怠等ニ因
テ損害ヲ生シタルトキハ普通ノ原則ニ依リテ之カ賠償ヲ請求シ又不正ノ行

爲アルカ著シキ不行跡アルトキハ之ヲ免職スルコトヲ得第九〇八條第八號ヘ
シト雖モ不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡等ハ之ヲ證明セサル可カラサルモノ
シテ時トシテハ其證明ニ困難ヲ感スルコトアリ又ハ財産ヲ調査セザレハト
必スシモ不正行爲不行跡アリト云フヲ得サルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テモ之
ヲ免職スルコトヲ得ル規定ヲ設ケタルトキハ如何トモスルヲ得タル場合ヲ生
スヘキヲ以テ親族會ハ此義務ニ違背シタル後見人ヲ免職スルコトヲ得ルモノ
トシタリ蓋シ此ノ如キ後見人ハ私曲ヲ逞シラセンカ爲メ若クハ甚シキ怠慢者
ナルカ爲メ法律上ノ義務ヲ怠リタルモノト看做スコトヲ得可クレハ之ヲ免職
スルコトヲ得トシタルハ當然ナリ

○目錄調製終了前ノ權限——第九百十八條 後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマテ
ハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對シ
スルコトヲ得ス(人事編第一八九條)

後見人カ財産ノ調査目錄ノ調製前ニ管理ニ著手スルコトヲ得ルモノトスルト
キハ前ニ叙述シタルカ如ク弊害アルヲ以テ其調査終了スルマテハ被後見人ノ

爲メニ行爲ヲ爲サシメタルヲ可ナリトス然レトモ其間全ク如何ナル行爲ヲモ
爲サシメタルコトトスルトキハ被後見人ノ爲メニ後見機關ノ一部ヲ缺クヲ以
テ後見人カ財産ノ調査ヲ爲シ目錄ノ調製ヲ終ルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノ
ミヲ爲ス權限ヲ與ヘタリ例ヘハ訴訟行爲ニ付キ懈怠ヲ爲ストキハ甚シキ不利
益アル場合不變期間ノ經過時効ノ中断急ヲ要スル修繕期間アル株金ノ拂込等
ノ如キ之ヲ怠ルトキハ權利ヲ失ヒ又ハ財産ノ破損ヲ招クカ如キ行爲ハ之ヲ爲
スコトヲ得セシメサル可カラス又爲サシメタル可カラサルナリ若シ之ヲ爲ス
コトヲ得サルモノトスルトキハ却テ被後見人ノ不利益タル可キナリ然レトモ
其他ノ行爲ニ至リテハ財産目錄調製ヲ待テテ後之ヲ爲スモ不都合アルコトナ
カル可シ

夫レ此ノ如ク後見人カ財産目錄ノ調製ヲ終ラサル前ニ於テ本條ノ權限外ノ行
爲ヲ爲シタルトキハ其行爲ハ被後見人ニ對シテハ全ク效力ヲ生セサルヲ原則
トスト雖モ善意ノ第三者即チ後見人カ財産目錄ノ調製ノ終ラサルコトヲ知ラ
サル者ニ對シテ後見人カ急ヲ要セサル行爲ヲ爲シタルトキ之ヲ後見人ノ權限外

ニ屬スル行爲トシテ效力ヲ生セサルモノトスルトキハ第三者ハ之カ爲メニ當
外ノ損失ヲ被リ甚ク酷ニ過クザナリ何トナレハ財産目錄ノ調製ノ終リタルヤ
否ヤノ如キハ全ク後見人ト被後見人トノ間ニ於ケル内部ノ關係ニシテ第三者
ハ之ヲ知ラサルヲ常トスレハナリ故ニ善意ノ第三者ニ對シテハ後見人ハ常ニ
第九百二十三條ニ規定セル權限ヲ有セルモノト看做シ之ヲ保護セリ然レトモ
第三者ニシテ未タ財産目錄ノ調製ヲ終ラサルコトヲ知リナカラ後見人ト其權
限外ニ屬スル行爲ノ取引ヲ爲シタルトキハ第三百十三條乃至第一百八條ノ規定
ニ依リ追認アリタルトキハ行爲ノ當時ニ遡リテ其效力ヲ生スヘシト雖モ然ラ
サルニ於テハ被後見人ニ對シテ其行爲ハ效力ヲ生セサルナリ
○被後見人ニ對スル債權債務關係ノ申出——第九百十九條——後見人カ被後見人
ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財産ノ調査ニ著手スル前ニ之ヲ後見
監督人ニ申出フルコトヲ要ス後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知
リテ之ヲ申出ラサルトキハ其債權ヲ失フ後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フ
コトヲ知リテ之ヲ申出ラサルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得人

事訓第一八八條

本條ハ財産調査ノ著手前後後見人ニ負ハシメタル義務ノ一ナリ蓋シ被後見人ノ
財産ヲ調査スルハ前ニモ叙述シタルカ如ク其財産ヲ明確ニスルニ在ルカ故ニ
被後見人カ有スル債權債務モ亦之ヲ記載ス可キハ勿論ナリ然ルニ後見人カ被
後見人ニ對シテ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フ場合ニ之ヲ申出フルコトヲ要セス
トスルトキハ後見人カ債權者タル場合ニ於テ被後見人ノ先人カ既ニ辨済シタ
ル證據ナキコトヲ發見シタルトキハ再ヒ之カ辨済ヲ請求ス可ク又ハ被後見人
方ニ存セシ辨済ノ證據ヲ濯滅シテ再度ノ辨済ヲ請求スルコトアルモ計リ知ル
可カラサルナリ又後見人カ被後見人ノ債務者タル場合ニ於テハ被後見人方ニ
債權ノ證據ナキヲ奇貨トシ又ハ存セシ證據ヲ濯滅シテ其義務ヲ免レント圖
ルコトナシトモ然レトモ財産ノ調査前ニ以上ノ申出ヲ爲ストキハ此ノ如キ
奸曲ヲ爲スコト能ハサル可キナリ
後見人ハ何人ニ對シテ其債權及ヒ債務ノ申出ヲ爲スコキヤ外國ニ於テハ或ハ
公證人或ハ裁判所或ハ親族會ニ之ヲ申出ラシムル例多ク又尋問ヲ受ケテ後申

出ツレハ可ナリト爲スモ、アレトモ本法ハ此ノ如キ立法例ニ倣ハス尋同ヲ受
ケスレバ後見人自ラ進ンテ後見監督人ニ申出ヲ可キコトトセリ
後見人カ右申出ヲ怠リタル制裁トシテハ債權ヲ有スル場合ト債務ヲ負擔スル
場合トニ因リ異ナレバ後見人カ被後見人ニ對シテ債權ヲ有スルコトヲ知リナ
カラ之ヲ申出タルトキハ其債權ヲ失フモノトシ又債務ヲ負フコトヲ知リナ
カラ之ヲ申出タルトキハ其債權又ハ債務アルコトヲ知リテ之ヲ申出タル
トモ此等ノ場合ハ後見人カ其債權又ハ債務アルコトヲ知リテ之ヲ申出タル
場合ニ限ルモノニシテ若シ後見人カ相續其他ニ因リテ被後見人トノ間ニ債權
又ハ債務ノ關係アルコトヲ知ラサル場合ニ於テハ之カ申出ヲ爲ササルヲ責ム
可キニ非サレハ以上ノ制裁ヲ受ク可キモノニ非サルナリ
○就職後被後見人カ包括財産ヲ取得シタル場合ニ於ケル義務——第九百二十條
前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財産ヲ取得シタル場合ニ之
ヲ準用ス
被後見人ノ利益ヲ能ク保護スル爲メニハ後見人カ就職スル際ニ限ラス其以後

ト雖モ被後見人カ財産ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ其都度之ヲ財産目録中
ニ記載セサル可カラズ然レトモ被後見人カ特定財産ヲ取得スル場合ハ類案ナ
ル可キニ其都度後見人ヲシテ一之カ目録ヲ調製セシムルカ如キハ後見人ヲ
シテ其類ニ堪フルコトヲ得テラシムルヲ以テ特定財産ヲ取得シタルトキハ第
九百二十八條ノ規定ニ從ヒ後見人ハ毎年少クモ一回被後見人ノ財産ノ狀況
ヲ親族會ニ報告ス可キ義務アルヲ以テ之ニ依リテ報告スレハ足ルモノトシ特
ニ取得ノ都度財産目録ニ記載ス可キ義務ヲ負ハシメサル所以ナリ然レトモ被
後見人カ包括財産ヲ取得シタルトキ例ヘハ他人ノ相續ヲ爲シ又ハ他人ヨリ包
括的遺贈ヲ受ケタル場合ニ於テハ被後見人ノ財産ニ至大ノ變動ヲ生スルモノ
ナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ新ニ財産目録ヲ調製シテ其取得シタル資産
額ヲ明カニスルハ必要ナルヲ以テ此場合ニ限リ前三條ノ規定ヲ準用スルコト
ト爲シタルヲ信ス
○未成年者ノ身上ニ關スル後見人ノ職務——第九百二十一條 未成年者ノ後見
人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三條及ヒ第八百八十五條ニ定メタル事項

ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ母カ
定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ未成年者ヲ懲戒場ニ入レ懲業ヲ許可シ
其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス八事編
第一八四條第一八五條
未成年者ニ對スル後見ハ恰モ親權ノ延長シタルモノノ如クニシテ其後見人ハ
親權者ノ相繼人ト云フモ可ナルカ故ニ後見人ノ職務ハ概シテ親權者ニ等シキ
ヲ本則トスレトモ唯其間差異アルハ其ハ一ハ自然ノ愛情ニ基クモノナルカ故ニ
其保護完全ナルコトヲ期シ得キモ他ノ一ハ必スシモ自然ノ愛情アラザルヲ
以テ其保護完全ナルコトヲ期ス可カラス是ヲ以テ親權者ノ權利ニハ制限ナキ
場合ニモ後見人ノ制限ニハ制限アリテ殊モ親族會ノ監督ヲ受ケ其認許ヲ得テ
被後見人ニ對スル權利ヲ行フコトアルノミ即チ本條ニ於テ未成年者ノ身上ニ
關スル權利義務ニ付キ親權ニ關スル規定ヲ準用スルコトトモ後見人ハ第一、
未成年者ノ監護及ヒ教育ノ權利義務(第八七九條第二未成年者ノ居所ヲ定ムル
權利第八八〇條第三兵役ノ出願ヲ許可スル權利第八八一條第四懲戒ノ權利第

八八二條)第五職業ヲ許可シ之ヲ取消シ又ハ制限スルノ權利第八八三條第六未
成年者カ其配偶者ノ財産ヲ管理ス可キ場合ニ未成年者ニ代リテ其財産ヲ管理
スル權利(第八八五條)ヲ有ス然レトモ親權者ハ子ノ教育ノ方法及ヒ其居所ヲ定
メ之ヲ懲戒場ニ入レ其營業ヲ許可シ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニ獨斷
ヲ以テ決スルコトヲ得ルト雖モ後見人ハ此等ノ場合ニ於テハ必ス親族會ノ同
意ヲ得ルコトヲ要スルモノトモテ蓋シ此等ノ場合ハ總テ被後見人ノ爲メ重大
ナル利害アルモノナレハナリ
後見人カ新ニ未成年者ノ教育ノ方法ヲ定ムル場合ハ親權ヲ行フ父又ハ母ト同
シテ取テ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス唯親權ヲ行ヒタル父又ハ母カ定メ
タル方法ヲ變更セシト欲スルトキノミ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルナリ
又未成年者ノ居所ヲ定ムル場合モ亦之ト同シテ其親權者カ定ムルモノトモ變
更ナルトキノミ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルニ過キサルナリ但此場合
ニ於テモ後見人以外ノ者戶主或ハ戸主ハ第七百四十九條ノ規定ニ依
リ家族會所未成年者ノ居所ヲ定ムル權利ヲ有スルモノトモ論ヲ埃クサルナリ而

シテ又後見人カ戸主タル場合ニ於テハ戸主ノ資格ヲ以テ右同條ノ規定ニ依リ其
御斷ヲ以テ未成年者ノ居所ヲ變更セシムルヲ得ルコトモ亦論ヲ埃タサルナリ
法律カ親權者ノ既ニ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更スル場合ニ親族會ノ
同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトシタルハ蓋シ親權者ハ子ノ爲メ最モ利益アル
教育ノ方法及ヒ居所ヲ定メタルモノト看做スカ故ニ之ヲ變更スルニハ重大ナ
ル理由ナカラサル可カラサルナリ是ヲ以テ親族會ヲシテ之ヲ調査セシメンカ
爲メニ其同意ヲ得ルコトト爲シタルナリ

○禁治產者ノ身上ニ關スル後見人ノ職務——第九百二十二條 禁治產者ノ後見
人ハ禁治產者ノ實力ニ應シテ其療養看護ヲ力ムルコトヲ要ス 禁治產者ヲ癡癪
病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人ノ之ヲ定ム
(人事編第二二二七條)

本條ハ禁治產者ノ後見人ニ特殊ナル職務ヲ定メタルモノナリ禁治產者ニ對ス
ル後見モ其身體及ヒ財產ヲ保護スル職務タルコト未成年者ニ對スル後見ニ同
シト雖モ其保護ノ目的ノ異ナルニ從ヒテ其職務ノ實體モ異ナル所アリ茲シ法

律カ未成年者ヲ後見ニ付スルハ其身體精神ノ未タ發達セザルニ由ル而シテ禁
治產者ヲ後見ニ付スルハ其身體精神ノ健康ヲ失ヘルニ由ル故ニ未成年者ニ付
キ其監護及ヒ教育ニ注意ス可キト同シ禁治產者ニ付テハ其療養看護ニ注意
セザル可カラズ唯療養看護ノ方法ニ付テハ固ヨリ本人ノ實力ニ應シテ自ラ差
等アル可キカ故ニ禁治產者ノ實力ニ應シテ其療養看護ヲ爲ス可キコトトシタ
リ

禁治產者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ナルヲ以テ之ヲ療養看護スルニハ癡癪病
院ニ入ルルカ又ハ之ヲ私宅ニ監置スルカハ費用ノ上ニ差異アルノミナラス禁
治產者ノ健康ニモ影響ヲ及ホシ且ツ其病症如何ニ依リテハ病院ニ入レ又ハ監
置スルノ必要ナキ場合モアル可ケレハ此等ノ事ヲ決スルニ後見人ノ御斷ヲ以
テセシムルハ禁治產者ノ爲メ利益ナラサルヲ以テ後見人カ之ヲ決スルハ親
族會ノ同意ヲ得可キコトト爲シタル

○被後見人ノ財產ニ關スル後見人ノ職務——第九百二十三條 後見人ハ被後見
人ノ財產ヲ管理シ又其財產ニ關スル法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代表ス(第八百

豫定額ヲ超スル金額ヲ支出スルコトヲ妨ケヌ(人事編第一九〇條第一項、第二〇九條第二二六條)

注見後

見人ハ之カ責任ヲ負ハサル可カラズ何トナレハ後見人ハ被後見人ヲ爲タニ常ニ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其職務ヲ執ラサル可カラザレハナリ又其反對ニ於テ綜合其豫定額外ト雖モ已ムヲ得サル支出ナルトキハ之ヲ支出スルコトヲ許ササル可カラズ然レトモ此場合ニ於テハ後見人ニ於テ其已ムヲ得サルコトヲ證明セサル可カラズ

本文中生活ノ費用及ヒ財産管理ノ費用ハ未成年者及ヒ禁治產者ニ共通スルモノナレトモ教育ノ費用ハ専ラ未成年者ニ療養看護ノ費用ハ禁治產者ニ關スルモノナルヲ論ラ埃タサルナリ

○職務ニ對スル報酬——第九百二十五條 親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ實力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但後見人カ被後見人ノ配偶者直系血族又ハ戸主ナルトキハ此限ニ在ラズ

從見人ニ報酬ヲ與フ可キモノトスルヤ否ヤニ付テハ諸國ノ立法例區區ヲ爾爾ノ如キハ之ヲ與フルヲ常トシ佛蘭西伊太利ノ如キハ之ヲ與ヘサルヲ常トシ和蘭ノ如キハ報酬ヲ與ヘサルヲ原則トスレトモ裁判所ノ決定アルトキハ之

ヲ與フルコト例外アリ爾班牙埃太利及ヒ獨逸ノ如キハ親族會ハ決斷ニ依リ之ヲ與フルコトヲ得ルモノトセザル本法ハ獨逸法ニ倣ヒ親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ實力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得ルモノトセザル蓋シ後見人ニ報酬ヲ與フルヲ禁スルハ後見人ハ業ト公益上國民ノ義務トシテ之ニ無能力者保護ノ責任ヲ負ハシムルモノナルカ故ナレトモ是レ縱令國民ノ義務ナレハトテ後見ノ職務ヲ盡スカ爲ゾニハ時間ト費用トヲ要シ之カ爲メニ後見人ノ固有ノ職業ヲ妨ケラルルコトモアル可ケレハ強テ無報酬ニテ其職務ヲ執ラシムルハ甚タ酷ニ失スルモノト謂フ可キナリ然レトモ後見人カ配偶者直系血族戸主等ノ如キ特別ノ關係アル者ナルトキハ此等ノ者ハ其自然ノ性質ニ於テ被後見人ヲ保護ス可キ地位ニ在ルカ故ニ報酬ヲ與フ可キ理由存セザルナリ而シテ此但書ノ立法ノ趣旨ハ後見人カ其任務ヲ辭スルコトヲ得サル場合ニモ見ル所ナリ第九〇七條第四號但書

○有給ノ財産管理者又ハ復代理人ヲ使用スルノ權——第九百二十六條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得但第六條ノ通

用ヲ妨ケス(八事編第一九〇條第二項) 債權ノ行使ハ債權人ノ自己ノ職務ヲ執ラ
 後見人ハ被後見人ノ身上ニ關スル事項ニ付テハ他人ニシテ自己ノ職務ヲ執ラ
 シムルコトハ許ス可カラレトモ財產ノ管理ニ付テハ法定代理人ハ原則トシ
 タ自己ノ責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルヲ得ルコトハ第六六條ニ規定スル所
 ニシテ此原則ハ後見人カ被後見人ノ財產ヲ管理スル場合ニ除外ヲ設ケ可キニ
 非サレハ後見人ハ自己ニ代ル財產ノ管理者ヲ使用スルコトヲ得若シ之ヲ許サ
 タルトキハ被後見人ノ財產多ナルトキ又ハ諸所ニ散在スルカ如キ場合ニ於
 テハ後見人一人ニテ之ヲ管理スルヲ得サルコトアリ或ハ後見人カ自己ノ職務
 ニ繁忙ナルカ爲メニ自ラ被後見人ノ財產ヲ管理スルヲ得サルカ如キ不便アリ
 然ルニ他人ヲ以テ後見人ニ代ルコトヲ許シ後見人カ其責任ヲ負フニ於テハ恰
 モ後見人自ラ管理スルト同一ニシテ極メテ便利ナルナリ然レトモ後見人カ被
 後見人ノ財產中ヨリ自己ノ獨斷ヲ以テ其代理人ニ給料ヲ與フルコトヲ得ス若
 シ給料ヲ與フル必要アルトキハ親族會ノ同意ヲ得サル可カラズ而シテ後見人
 カ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財產管理者ヲ使用シタル場合ニ於テモ第六六條

ノ規定ハ適用セラレルモノトス即チ後見人ハ其復代理人ノ行爲ニ付テハ自ラ
 責任ヲ負フ可キヲ原則トシ唯其復代理人ヲ使用スルノ已ムヲ得タルニ出テタ
 ルトキハ單ニ復代理人ノ選任及ヒ監督ニ付テハ自己ノ責任ヲ負フモノトス
 ○受取リタル金銀ヲ寄託スル義務——第九百二十七條 親族會ハ後見人就職ノ
 初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金銀カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ
 寄託スヘキカラ定ムルコトヲ要ス後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金銀
 カ親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間内ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法
 定利息ヲ拂フコトヲ要ス(金銀ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人
 之ヲ定ム)(人事編第一九一條) 債權人ハ其復代理人ノ行爲ニ付テハ自ラ
 後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金銀カ當ミタルトキ之ヲ銀行其他ニ貯
 藏セシメテ後見人カ保管スルニ於テハ後見人カ之ヲ消費若クハ融通スルノ允
 當アルノミナラズ空しく之ヲ貯藏スルトキハ刑罰セサルヲ以テ親族會ハ後見
 人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金銀カ何程ノ額ニ達
 セハ之ヲ寄託ス可キカラ定ムルコトヲ要スルコトヲ爲シタリ然レトモ後見人

カ如何ナル金額ヲ受取ルモ即時之ヲ寄託ス可キモノトスルモ其後
見人ハ實ニ其額ニ堪ハサルヲ飲ニ法律ハ如何ナル些細ニテ寄託ス可キモノト
ヲ命セシ何程ノ額ニ達スレハ寄託ス可キモノト被後見人ノ資產ニ從ヒテ異ナル
モノナレハ其額ハ親族會ニ於テ定ムルモ其額ト爲セリ其額ハ其後見人ノ
素ト被後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金額ヲ寄託スルモノトスルハ被後
見人ノ財產ノ安固ヲ圖ル爲メニ出ツルモノナレハ其之ヲ寄託ス可キ場所ニ付
テモ被後見人カ隨意ニ定ムルモノトテ許サス若シ被後見人カ之ヲ信用ナキ所ニ寄託
スルトキハ被後見人ノ爲メ安固ヲ圖リテ却テ其不利益ト爲ル可ケレハ其寄託
ス可キ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ被後見人ノ之ヲ定ムルコトトセリ
被後見人カ親族會ノ定メタル額ニ達シタル金額ヲ相當ノ期間内ニ寄託セサルト
キハ之ニ對スル制裁ナカレ可キラス此場合ニ於テ被後見人ハ其期間ヲ經過シタ
ルトキヨリ其法定ノ利息第四百四條ノ規定ニ依リ一ヶ年五分ナリヲ拂フコト
ヲ要ス
○財產ノ狀況ヲ報告スル義務一第九百二十八條ノ規定被後見人及ヒ選定被後見人

ハ毎年少クトモ一回被後見人ノ財產ノ狀況ヲ親族會ニ報告スルコトヲ要ス又ハ
事編第一九二條第二二六條第二二八條ノ規定ニ依リ被後見人ハ其財產ノ狀況ヲ
親族會ニ被後見人ヲ監督スル職務ヲ有スルモノト被後見人ノ財產ノ狀況ヲ報告ス
タルトキハ其結果シテ被後見人カ適當ニ其任務ヲ盡セザルヲ知ルコト能ハサル
場合多シ若シ被後見人カ其任務ノ終了シタルトキ之ヲ一時ニ報告スルヲ以テ是
レトスルモノトキハ被後見人ノ任務ハ十數年モ繼續スルモノトアル可ケレハ其間ニ
如何ナル私曲ヲ行フモノ之ヲ知ルコト難クシテ遂ニ被後見人ノ不利益ト爲ル可
キヲ以テ毎年少クトモ一回財產ノ狀況ヲ報告ス可キモノト爲シタルナリ而シ
テ此ノ如クスルモノトキハ被後見人ノ利益タルモノナラズ被後見人自身ノ利益
ニ爲ルモノトシテ何トナレハ被後見人ハ毎年少クトモ一回ノ報告ヲ爲ストキハ之ヲ
以テ一年間ノ責任ヲ解除セザル可ケレハ其額ハ其後見人ノ利益タルモノナラズ
法律カ此義務ヲ課シ選定被後見人第九〇一條及ヒ選定被後見人第九〇四條ニ限リ
テ負ルモノト父母配偶者又ハ同居主ノ如キ法定被後見人第九〇三條第九〇三條ノ
ヲ負ハシメタルハ如何此等ノ被後見人ハ一々自然ノ愛情ヲ基キテ故ニ職務ヲ行

ヲコトスルハ種ナリト推定シ又ハ此等ノ法定後見人ハ法律上當然後見人
タル職務アルモノニシテ如何ナル場合ニモ報酬ヲ請求スルコトヲ得ザルカ故
ニ之ニ本條ノ職務ヲ負ハシムルハ附屬失スルヲ以テナリト推定スル可キ
○重大ナル行為ニ付キ親族會ノ同意ヲ得ル義務——第九百二十九條 後見人カ
被後見人ニ代ハリテ營業若クハ第十二條第一項ニ掲ケタル行為ヲ爲シ又ハ未
成年者ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本
ノ領收ニ付テハ其限ニ在ラス人事編第一九三條第一九四條第二二九條
本條ハ後見人ノ代理權及ヒ同意權ノ制限ノ一タリ蓋シ後見人ハ第九百二十三
條ニ依リ被後見人ノ財産ニ付テハ概括的權限ヲ有シ又第四條ニ依リハ未成年
者カ法律行為ヲ爲スニ付キ同意ヲ與フル權利ヲ有スト雖モ後見人カ如何ナル重
大ナル行為ト雖モ之ヲ其獨斷ニテ爲シ又ハ爲テシムルコトヲ得ルモノトスル
トモ甚ダ危險ニシテ被後見人ノ利益益タル可キヲ以テ本法ニ於テハ後見人ノ
專横ヲ防カンカ爲メニ後見人カ被後見人ニ代リテ營業ヲ爲シ又ハ未成年者カ
之ヲ爲スニ同意ヲ爲ス場合及ヒ後見人カ被後見人ニ代リテ第十二條第一項ニ

掲ケタル行為ヲ專横治産者カ其保佐人ノ同意ヲ得テ爲ス行為即チ(一)元本ヲ領收
シ又ハ之ヲ利用スルコト(二)借財又ハ保證ヲ爲スコト(三)不動産又ハ動産ニ關ス
ル權利ノ得喪ヲ目的トスル行為ヲ爲スコト(四)訴訟行為ヲ爲スコト(五)贈與和解
又ハ仲裁契約ヲ爲スコト(六)相続ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト(七)贈與若クハ
遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト(八)新築改築増築又
ハ大修繕ヲ爲スコト(九)第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル貸貸借ヲ爲スコ
ト(十)爲シ又ハ未成年者カ之ヲ爲スニ同意ヲ爲ス場合ニハ親族會ノ同意ヲ得ル
コトヲ要スルモノト爲セリ而シテ第十二條ニ列舉シタル行為ハ孰レモ重大
ナルモノナレトモ是レ民法總則編ノ講義ニ依リテ判明ス可キヲ以テ茲ニハ別
ニ説明セザルナリ唯同條ノ規定ト異ナル所ハ茲ニ叙述セザル可カラス即チ同
條第一項第一號ノ前半タル元本ヲ領收スルコトハ專横治産者カ之ヲ爲スニハ
其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スト爲シタルモ後見人カ被後見人ノ爲メニ之ヲ
領收スル場合ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要セザルモノト爲シタルハ他ナシ
專横治産者カ其獨斷ニテ元本ヲ領收スルコトヲ得ルモノトスルトモ往々損

害ヲ被ルコトアラザラシムルモ後見人カ被後見人ニ代リテ之ヲ領收シタルト被後見人ニ損害ヲ造成スルノ虞ナク若シ元本ヲ領收スル場合ニ一親族會ノ同意ヲ得可キコトトスルトキハ甚タ煩ニ堪ヘサルモノモシテ却テ被後見人ノ利益タル可キヲ以テ但書ヲ加ヘタルナリ

○後見人ノ能力ノ制限

(一) 第九百三十條 後見人カ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第九條ノ規定ヲ準用ス前項ノ規定ハ第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス(事編第一九五條財産取得編第三七條第三八條)

後見人自身ノ利益ト被後見人ノ利益ト相反スル場合ニ於テハ後見人カ自己ノ利益ヲ圖ルハ人情ノ常ナルカ故ニ後見人カ被後見人ノ財産ヲ讓受タルコトヲ得ルトスルトキハ低價ニ之ヲ讓受タルノ虞アルノミナラズ或ハ被後見人ノ爲メニ保存ス可キ財産ヲモ讓受タル等被後見人ノ損害ト爲ルベキ弊害ヲ生スルニ至ル又被後見人ニ對スル第三者ノ權利例ハハ第三者カ被後見人ニ對シテ有

スル債權ヲ讓受タルコトヲ得ルモノトスルトキハ後見人ハ其債權ニ付テハ學アル場合ニモ之ナキ如クシ被後見人ノ爲メニ利益ト爲ル可キ證據物ハ總テ之ヲ隠滅シ以テ自己ノ利益ヲ圖ルノ虞アリ故ニ此等ノコトハ共ニ避ク可キモノニシテ諸國ノ立法例ニ於テハ往往全ク此行爲ヲ禁スルモノアリ舊民法人事編ノ如キモ後見人ハ未成年者ノ財産又ハ未成年者ニ對スル權利ヲ讓受タルコトヲ得ストシ解釋上其行爲ハ全ク無効ト爲シタレトモ本法ハ之ヲ絕對ニ禁止セシメ此場合ニ於テ被後見人ハ其讓渡ヲ取消スコトヲ得ルモノトモテ蓋シ後見人カ被後見人ノ財産又ハ之ニ對スル權利ヲ讓受ケタル場合カ必スシモ被後見人ノ利益ト爲ルモノニ非スシテ却テ往其利益ト爲ルコトモアル可ケレハ之ヲ絕對ニ禁止ス可キ必要ナキカ故ニ以上ノ如ク取消スコトヲ得ルニ止メタルナリ

本條ノ規定ハ後見人カ讓受行爲ヲ爲シタル場合即チ契約ニ因リテ被後見人ノ財産又ハ之ニ對スル權利ヲ讓受ケタル場合ニミ適用ス可キモノニシテ被後見人カ相關遺贈等ニ因リテ其權利ヲ取得シタルトキハ其行爲ナキカ故ニ被後見

人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得タルヲ論テ埃タナルナリ
 本條ノ取消權ハ無能力者ノ行為ノ取消ト其性質ヲ同シタルカ故ニ無能力者
 ノ行為ニ關スル第十九條ノ規定ヲ此場合ニ準用スルコトスルハ至當ナリ故
 ニ後見人ハ被後見人カ能力者ト爲リタル後之ニ對シ又ハ其能力者ト爲ル以前
 ニ於テハ其後任後見人ニ對シテ一ヶ月以上ノ期間内ニ其取消スコトヲ得ヘキ
 行為ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告シ其期間内ニ確答ヲ爲サザルト
 キハ之ヲ追認シタルモノト看做ス又第百二十一條乃至第百二十六條ニ揭ケタ
 ル取消權ニ關スル一般ノ規定即チ其取消ノ效力其行為ノ追認取消及ヒ追認ノ
 方法取消權ノ消滅時効ノ如キハ總テ總則ノ規定ニ依ル可キハ當然ナルカ故ニ
 之ニ依ル可キコトトシタリ

(二) 第九百三十一條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財
 産ヲ貸借スルコトヲ得ス(人事編第一九六條)
 後見人カ被後見人ノ財産ヲ其獨斷ニテ貸借スルコトヲ得ルモノトスルトキハ
 自己ノ利益ヲ圖ルカ爲メニ廉價ニ借受タルノ虞アリ然レトモ他ノ著力借受

タルト同様若クハ之ヨリ一層被後見人ノ爲メニ利益ナル條件ヲ以テ貸借スル
 トキハ被後見人ノ爲メニ利益アルコトアルモノ不利ナルコトナケレハ此ノ如
 キ場合ニハ後見人カ貸借スルコトヲ許スモ可ナリ故ニ法律ハ後見人カ被後見
 人ノ財産ヲ貸借スルコトヲ絕對ニ禁止セシメシテ親族會ノ同意ヲ得可キモノト
 セリ

本條ニ規定スル貸借ハ不動産タルト動産タルトヲ問ハス總テ之ヲ包含スルナ
 リ人事編並ニ佛蘭西民法第四五〇條第三項ノ如キハ之ヲ不動産ノ貸借ニ限リ
 タレトモ被後見人ノ動産タリトモ後見人カ其獨斷ニテ之ヲ貸借スルコトヲ得
 ルモノトスルトキハ同シタ被後見人ノ爲メニ不利ナル可キヲ以テ本法ハ其
 範圍ヲ廣メ之ヲ財産ト爲シタルモノナリ
 本條ノ規定ニ依リテ後見人カ被後見人ノ財産ヲ貸借スルトキハ後見人ハ被後
 見人ヲ代表セシ此場合ニ於テハ被後見人トノ利益相反スルヲ以テ被後見人ヲ
 代表スル者ハ第九百十五條第四號ノ規定ニ依リテ後見監督人タルコト當ラ
 埃タナルナリ

○後見人カ任務ヲ曠クレタル場合ニ於ケル處置——第九百三十二條 後見人カ其任務ヲ曠クルモノキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ爾後見人ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得人事編第一六三條 以テ其責任ハ後見ハ公義務ニシテ其任務ヲ負擔ス可キ者カ道ニ之ヲ選タレバ得テゴトトシ第九百七條ニ於テ説キタルカ如シ然レトモ後見ハ其任務ニ就ク者ヲシテ作為ノ責ヲ負ハシムルモノナレハ後見人カ其任務ヲ怠リテ之ヲ違テタル場合ニ於テハ法律上後見ハ單ニ之ヲ辭スルコトヲ得サルモノト爲スルベキニシテ本條以テ足レリトモ尙ホ其上ニ加フ可キ制裁スルモノト爲スルコトヲ得ルニシテ後見人カ任務ヲ盡ササルモノキハ之ニ因リテ生スル損害ハ固ヨリ之ヲ賠償ス可キ實第九百三六條第六四條アリト雖モ損害賠償ハ素ト既ニ生シタル場合ノ救済法タルニ過キテハ損害ヲ未發ニ防キ以テ被後見人ヲ保護スルノ方法ナラズ可カラズ是ニ於テ法律ハ後見人カ其任務ニ就カス又一且其任務ニ就キタル後ト雖モ其任務ヲ曠クタルモノキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ之ヲシテ被後見人ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得ルモノト爲シ此場合ニ於テ後見人ハ

其臨時管理人ノ行為ニ付テハ責任ヲ負フ可キモノトシタル舊民法人事編第一六三條ハ此場合ニ後見人ハ代務者ノ管理ノ費用ヲモ負擔ス可キモノト爲シタルトモ此費用ハ何人カ管理シタルト必ス要スルモノナレハ是レ被後見人ノ財産中ヨリ支辨ス可キモノトシテ後見人ノ負擔ト爲サザリシ所以ナリ而シテ外國ニ於テモ此ノ如キ場合ニ後見人ヲシテ費用ヲ負擔セシムルモノアルヲ見タルナリ

法律ハ臨時管理人カ被後見人ノ財産ヲ管理スルニ當リ過失アリタルトモ後見人其實ニ當ル可キモノト爲シタルカ故ニ其過失ヨリ生シタル損害ハ被後見人ハ其過失者ニ對シテ請求スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ後見人ニ對シテも請求スルコトヲ得ル可キナリ而シテ此場合ニ於テ後見人カ過失者タル管理人ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得ルハ勿論ナリ

臨時管理人ノ權限ハ被後見人ノ財産ノ管理ニ止マリ其身分上ノ事ニハ關セザルナリ例ハハ教育ノ方法ヲ定メ居所ヲ指定シ又ハ懲戒ヲ爲スコト等ハ管理人カ權限ニ非タルナリ又財産ニ關シテも管理行為以外ニ於テハ管理人ハ權限ヲ

有キス例ヘハ被後見人ニ代リテ法律行為ヲ爲シ又ハ被後見人カ其行為ヲ爲スニ同意ヲ與フルコトノ如キ是ナリ故ニ若シ後見人カ此等ノ事ニ關シテ其任務ヲ曠クシタルトキハ裁判所ニ請求シテ之ヲ罷黜スルヨリ外アラサルナリ(第九〇八條第八號)

○後見人ノ擔保提供ノ義務——第九百三十三條 親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ價值權擔保額第二〇四條第一項第二號第二一七條第二二七條ニ於テ必要アリト認メタルトキ其財産本能ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認メタルトキ其財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ夫ヲシテ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ規定シタル第八百三條ト其趣旨ヲ同シウス蓋シ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理スルヨリ其損失又ハ故意ニ因リテ被後見人ニ損害ヲ加フ可キ危險アルヲ以テ被後見人保護ノ爲メ親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得ルモノト爲セリ若シ此規定ナキトキハ後見人カ管理ノ當ヲ失シ又ハ濫ニ被後見人ノ財産ヲ費消シタル場合ニ於テハ後見終了ノ後被

後見人ハ後見人ヨリ其財産ノ返還ヲ受クルコト能ハスシテ損失ヲ受クルニ至ル是ヲ以テ此規定ヲ設ケタリ而シテ本法ニ於テハ此義務ヲ後見人ニ對スル定義務ト爲ナスシテ親族會カ必要ト認ムル場合ニ限リ相當ノ擔保ヲ供セシム可キモノト爲シタルハ最モ實際ニ適セリ然ルニ舊民法債權擔保編第二〇四條及ヒ佛蘭西民法第二一二條ノ如キハ被後見人ハ妻カ夫ニ對シテ法律上ノ抵當權ヲ有スルト同シテ後見人ノ總不動產ノ上ニ當然抵當權ヲ有シ之ヲ登記シテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノト爲シタルトモ常ニ此ノ如クスルトキハ後見人ハ其不動產ノ融通ヲ妨ケラレ其迷惑尠ナラサル殊ニ富裕ナル濃厚ノ後見人ニ對シテハ必スシモ擔保ヲ供セシム可キ要アラズ又其擔保ハ法律上ノ抵當即チ不動產ニ限レルカ故ニ不動產ヲ有セサル後見人ハ擔保ヲ供セサルモ可ナルモノニシテ此ノ如キハ被後見人ノ保護トシテハ宜キヲ得サルヲ以テ本法ハ此ノ如キ場合ニ法律上ノ抵當ヲ認メシメト必要ナル場合ニ相當ノ擔保ヲ供セシム可キモノト爲シタル所以ナリ故ニ或ハ保證人ヲ立ラシメ或ハ有價證券ヲ供セシメ或ハ抵當權若シハ質權ヲ設定セシムルコトヲ得可キナリ

○戸主權及ヒ親權ノ代理行使——第九百三十四條 被後見人カ戸主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フ但家族ヲ離籍シ其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若クハ廢絶家ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ但第九百十七條乃至第九百二十一條及ヒ前十條ノ規定ヲ準用ス(人事編第二百五七條)

被後見人カ戸主ナル場合ニ於テ後見ニ付セラルル者ニシテ自ラ戸主權ヲ行フコトヲ得トスルハ甚タ道理ニ適セサルヲ以テ此場合ニ於テハ後見人代リテ其戸主權ヲ行フコトト爲シタリ而シテ父又ハ母カ未成年ノ子ニ代リテ戸主權ヲ行フ場合第八九五條ニ於テハ父又ハ母ニ對シテ別ニ戸主權ニ制限ヲ設ケザレトモ後見人カ代リテ戸主權ヲ行フ場合ニハ(一)家族ヲ離籍シ(第七四九條第三項第七五〇條第二項若クハ其復籍ヲ拒ムトキ(第七五〇條第二項)(二)家族ノ分家若クハ廢絶家再興ニ同意スルトキ(第七四三條)ハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノト爲セリ蓋シ此等ノ場合ハ孰レモ事重大ニ涉ルカ故ニ之ヲ後見人ノ關ニ要セサルコトト爲シタルナリ

未成年者カ親ナル場合ニ於テ自身親權ニ服シナカラ其子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルモノトスルハ戸主權ニ於ケルカ如ク道理ニ適セサルヲ以テ此場合ニ於テハ其未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ父又ハ母カ之ニ代リテ親權ヲ行フコトト爲シタレトモ(第八九五條)其未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキ場合ニ於テモ自身後見ニ付セラレナカラ其子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルトスルハ同シク道理ナルヲ以テ此場合ニハ後見人代リテ親權ヲ行フコトト爲シタリ而シテ後見人カ親權ヲ行フ場合ハ親カ自ラ之ヲ行フ場合ト異ナリテ種種ノ制限ヲ設ケタリ何トナレハ後見人カ未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ場合ニ於テハ未成年者ノ爲メニ其任務ヲ行フ場合ニ於ケルヨリ一層大ナル信任ヲ爲ス可キ爾ハレナキヲ以テナリ故ニ其後見ノ任務ニ付キ設ケタル制限ハ總テ茲ニ準用スルコトト爲シタルナリ

○財産ノミニ關スル後見人ノ權限——第九百三十五條 親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ財產ニ關スル權限ノミヲ有ス(第四編 附屬)親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財產ヲ危タシタルトキハ其

管理權ヲ失フコトアリ(第八九七條)又親權ヲ行フ母ハ財產ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ル(第八九九條)モノニシテ此場合ニハ第九百條第一號ニ依リ後見ノ開始スルコトハ義ニ説キタリ而シテ此場合ニ於ケル後見人ハ他ノ場合ニ於ケルモノト其制限同シキモノニ非ス普通ノ場合ニ於ケル後見人ハ以上説キタルカ如ク被後見人ノ財產並ニ身上ニ關スル事項ニ付キ權限ヲ有スト雖モ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セタル場合ニ於テ後見ノ開始シタルトキハ被後見人ノ身上ニ關スル事項ニ付テハ親權ハ仍ホ完全ニ行ハルカ故ニ其權限ヲ後見人ニ與フ可キ必要アラサルナリ若シ此場合ニ於テ後見人ニモ被後見人ノ身上ニ對スル權限ヲ與フルモノトスルトキハ權力ニ途ニ分レ却テ被後見人ノ不利益タル可キヲ以テ後見人ニハ被後見人ノ身上ニ對スル權限ヲ與ヘス單ニ其財產ニ關スル權限ノミヲ與ヘタル所以ナリ

本條ニ於テ後見人カ有スル權限ハ財產ノ管理ニ止マラス尙ホ其外財產ニ關スル行為ニ付テ被後見人ヲ代表シ及ヒ之ニ同意ヲ與フル權限ヲモ包含スルモノトス故ニ法文ニハ管理權ノミヲ有スト言ハスシテ廣ク財產ニ關スル權限ノミ

ヲ有スト言ハル(百二十四條)又親權ニ關スル事項ニハ親權ノ行使ニ關シテ後見人ニ委任及ヒ親權ニ關スル規定ヲ準用(第九百三十六條)第六百四十四條第八百八十七條第八百八十九條第二項及ヒ第八百九十二條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用スル事編第一八六條第一九七條第二〇一條財產編第三一九條第一項第五四七條第一項(八十三條ノ準用)又後見人ノ職務ニ關シテハ後見人ノ職務ニ關シテハ後見人ニ委任及ヒ親權ニ關スル規定ヲ準用ス可キ必要アルヲ以テ茲ニ之ヲ準用スルコトト爲シタリ

第一 第六百四十四條ノ準用 此條ハ委任ニ關スル規定ニシテ受任者カ委任事務ヲ處理スル場合ニ於ケル注意ノ程度ヲ定メタルモノナリ受任者ハ委任者ニ對シテ其受任ノ事務ヲ處理スルニ當リテハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲ス可キモノト爲セリ而シテ後見人モ委任ノ場合ト同シク被後見人ノ爲メニ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ後見ノ事務ヲ處理セサル可カラズ後見人カ被後見人ノ爲メニ後見ノ事務ヲ處理スルハ親權者ノ子ニ於ケル夫ノ善ニ於ケルカ如ク期間網ニ準スル等親子及ヒ夫婦間ニ在リテハ蓋シモ親モタルカ如ク親又ハ夫カ事

單方丸

後見人ニ財産ヲ與ヘ而シテ其管理ヲ後見人ニ爲サシメタル所宜思フ表示シタル
 又ハ其財産ノ管理ハ後見人ニ屬セシメテ別ニ其第三者ノ指定シタル管理人
 又ハ第三者カ之ヲ指定セザラシトキハ後見人其親族又ハ債權者ノ請求ニ因リ
 テ裁判所カ選任シタル管理人ヲシテ之ヲ管理セシムルモノトス而シテ又第三
 者カ管理人ヲ指定セシトキト雖モ其管理人ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル
 必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理人ヲ指定セザルトキモ亦同シテ裁判所
 カ選任シタル管理者ヲシテ管理セシムルモノトス

第四節 後見ノ終了

本節ニ於テハ後見カ終了シタル場合ニ於ケル後見人ノ義務及ヒ管理ヨリ生シ
 タル債權ノ特別時効ヲ規定ス
 後見終了ノ原因ハ後見人ニ出ツルモノアリ後見人ニ出ツルモノアリ其被後
 見人ニ出ツル場合ハ第一死亡シタルトキ第二成年ニ達シ若クハ精神治癒ノ宣告
 ノ取消シタルトキ第三他人ノ養子ト爲リタルカ爲メ養親ノ親權ヲ行フトキ

第四戸主カ後見人タル場合ニ於テ被後見人カ其家ヲ去リタルトキ是ナリ又其
 後見人ニ出ツル場合ハ第一死亡シタルトキ第二辭任シタルトキ第三免職其他
 資格ノ欠缺シタルトキ第四第九百二條第一項ノ場合ニ於テ父又ハ母カ家ヲ去
 リタルトキ第五第九百三條ノ場合ニ於テ戸主カ隱居ヲ爲シタルトキ是ナリ而
 シテ其原因ノ被後見人ニ出ツル場合ノ第一乃至第三ハ後見終了ノ絕對ナルモ
 ノニシテ復タ後見人アルコトナシ然レトモ其他ノ場合ニ於テハ後見ノ終了ハ
 絕對ナルモノニ非サレハ總テ後任ノ後見人アル可キモノトス

○計算ノ義務——第九百三十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人又
 ハ其相繼人ハ二个月内ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ
 於テ之ヲ伸長スルコトヲ得人事編第二〇五條第二〇七條)
 他人ノ財産ヲ管理スルトキハ何人ト雖モ其計算ヲ爲ササル可カラサルヤ言フ
 テ埃タナル所ニシテ既ニ説キタルカ如ク親權者ニ付テモ其規定アリ第八九〇
 條故ニ後見人又ハ其相繼人ニモ此義務ヲ負ハシメタルモノニシテ固ヨリ當然
 ノ規定ナリ

後見人指定又は選定ノモノニ限ルハ第九百二十八條ノ規定ニ從ヒ毎年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スル義務アレトモ計算ヲ義務ノト異ナリヲ指定又は選定後見人ニ限ラス如何ナル後見人ト雖モ總テ其義務ヲ負フモノトス而シテ管理ノ計算ハ後見終了ノ時ヨリ二个月内ヲ以テ原則トス然レトモ被後見人ニ財産夥多アルカ其他正當ノ理由ニテ此期間内ニ計算ヲ爲スコト能ハサルカ如キトキハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得又其反對ニ於テ容易ニ計算ヲ爲スコトヲ得可クシテ二个月ヲ要セスト認メタルトキハ親族會ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

後見ノ職務ハ後見人ノ一身ニ關スルモノナルカ故ニ後見人カ死亡シタルカ如キ場合ニ於テ其職務ハ之ヲ相續人ニ承繼セラルヲ原則トスレトモ事務引繼ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ被後見人其相續人又ハ法定代理人カ自ラ其事務ヲ處理スルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲シ又ハ後見ノ任務ヲ繼續セサル可カラサルコト第九四一條下本條ニ規定スル管理ノ計算ヲ爲スコトハ後見人ノ相續人ニ承繼スルモノトス而シテ此等ノ事ハ被後見人ノ身分ニ關セズ

其財産權ニ關ルモノナレハ之ヲ後見人ノ相續人ニ承繼スルコトヲ爲スハ當然ナリ而シテ此義務ヲ相續人ニ承繼セシメタルコトスルトキハ後見人カ死亡シタル場合ニ於テハ被後見人ハ常ニ損失ヲ被ル可ケレハナリ

○後見人ノ計算ニ關スル條件——第九百三十八條 後見ノ計算ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス(八事編第二〇六條)

後見人カ計算ヲ爲ス可キ場合ニ於テ之ヲ其一一已ニ於テ爲ス可キモノトスルトキハ其計算正確ナルヲ可ク然ルトキハ他ノ保護規定アルトモ被後見人ノ爲メニ殆ト何等ノ用ヲ爲ササルニ至ル可シ故ニ後見ノ計算ハ必ス後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス可キコトト爲シタリ而シテ此場合ニ於テ被後見人其相續人後任ノ法定代理人ヲ立會ハサシメスシテ後見監督人ノ立會ヲ以テスルヲ以テ爲シタルハ他ナシ此等ノ人ハ被後見人ノ財産ノ實況ニ通曉セラルヲ以テ其計算ノ果シテ正確ナルヤ否ヤヲ知ルコト極メテ難クモ後見監督人ハ常ニ被後見人ノ財産ノ實況ヲ知悉ス可ケレハ隨テ其計算ノ正否ヲ分別スルコトヲ

得可ケレハナリ。又、第九百十三條ノ規定ニ依リテ後見監督人モ改選
後見人ノ更迭アリタルトキハ第九百十三條ノ規定ニ依リテ後見監督人モ改選
セラル可キカ此場合ニ於テハ後見ノ計算ニ立會フ後見監督人ハ前任者ナルヤ
將タ後任者ナルヤハ別ニ明文ヲ以テ之ヲ定メスト雖モ此場合ニ於テハ前任後
見監督人ノ立會ヲ以テス可キモノトス何トナレハ前任後見監督人ニ非ナレハ
財産ノ實況ヲ知悉セサルモノニシテ且ツ後見監督人ハ後見人ノ管理ノ計算ヲ
終ルマデハ其任務未タ完カラサルモノナレハナリ。又、第九百十三條ノ規定
本條ノ條件ハ絕對ノ條件ニシテ若シ之ヲ缺キタルトキ即チ後見監督人ノ立會
ナクシテ爲シタル計算ハ計算トシテ效力ヲ有セス故ニ此場合ニ於テハ前任後
見人又ハ其相續人ハ更ニ後見監督人ノ立會ヲ以テ計算ヲ爲ササルヲ得ス。又、
後見カ被後見人ノ爲メニ終了レ後任後見人ノアラサル場合ニ於テハ後見人カ
後見監督人ノ立會ヲ以テ爲シタル計算ハ被後見人自身又ハ其相續人ニ對シテ
爲スモノナルカ故ニ本人又ハ其相續人ニ於テ之ヲ審查スルヲ以テ其計算ニシ
テ其計算ナラサルトキハ之カ救済ヲ求ムルコトヲ得可シ是ヲ以テ此場合ニハ判

分ニ付キ爲ス所ノ判決ナリ訴訟ノ一分ニ付キ判決ヲ爲ストハ第四十八條第百
九十一條ノ規定ニ從ヒ一人若クハ數人ノ原告ヨリ一人若クハ數人ノ被告ニ對
シ一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲シタル場合ニ其中ノ一二ノ請求ニ付キ又ハ一
箇ノ可分ノ請求ノ一部分ニ付キ又ハ反訴ノ提起アリタル場合ニ本訴若クハ反
訴ノミニ付キ判決ヲ爲スヲ謂フ(第二二六條第一項)右ノ如ク訴訟ノ一分ニ付キ
數次ニ一分判決ヲ爲シタルトキハ各判決ハ訴訟ノ一分ヲ終局セシムルヲ以テ
全部判決ト同様之ニ對シテ獨立ノ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘク隨テ各判決ハ獨立
シテ確定力ヲ得ルニ至ルモノナリ。又、第九百十三條ノ規定ニ依リテ後見監督人
一分判決ハ常ニ必ス之ヲ爲スコトヲ要スルモノニアラス縱令請求ノ一分カ裁
判ヲ爲スニ熟スルモ裁判所ニ於テ事件ノ狀況ニ從ヒ一分判決ヲ爲スヲ相當ト
セザルトキハ之ヲ爲スニ及ハサルモノトス(第二二六條第二項)又、第九百十三條
第二 中間判決 其間決ハ訴訟ノ進行ニ依リテ必要ナル場合ニ於テハ裁判所
中間判決トハ第二百二十七條ノ規定スルカ如ク獨立ナル攻擊若クハ防禦ノ力
法文ハ中間ノ爭カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキニ爲ス所ノ判決ナリ即チ中間判決

ハ訴訟ノ全部若クハ一部分ヲ終局セシムルモノニアラスシテ其終局ニ達スル準備トシテ訴訟ニ於ケル或争點ニ關シテ爲ス所ノ判決ナリ故ニ中間判決ノ目的ト爲ル事項ハ若シ其判決ヲ爲ササルトキハ終局判決ノ理由ニ於テ判斷ヲ爲スヘキ事項ニ屬ス蓋シ法律カ中間判決ヲ爲スコトヲ許スハ當事者カ種利ノ攻撃方法又ハ防禦方法ヲ提出シタルトキ又ハ中間ノ争ヲ生シタル場合ニ於テ訴訟ノ紛雜ヲ避ケ容易ニ其終極ニ達スルヲ得セシメンカ爲メナレハ果シテ中間判決ヲ爲スノ利便アルヤ否ヤノ判定ハ原則トシテ一ニ裁判所ノ意見ニ任シ必ス之ヲ爲スヘキコトヲ命令セテ隨テ裁判所ハ便宜ニ從ヒ中間判決ヲ爲スノ權能ヲ有スルノミニシテ其義務アルモノニアラス唯例外トシテ既に説明シタル第三百五十一條ノ規定ニ於テ證書ノ眞否確定ノ申立アリタル場合ニハ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ命スルノミ

獨立ナル攻撃方法若クハ防禦方法トハ請求ヲ正當ナリトシ若クハ之ヲ不當ナリトスル理由トシテ提出スル事實上及ヒ法律上ノ主張ニシテ之ニ依リテ本案所争ノ請求ノ當否ヲ判斷スルニ足ルモノヲ謂フ故ニ其主張ノ正當ナルトキハ

之ニ依リテ終局判決ヲ爲スコトヲ得ヘキニ然ラザルニキハ之ヲ排斥スルノ中間判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ハ原告カ所有權ヲ基礎トスル訴訟ニ於テ讓渡時效相續等ノ事實ヲ合セテ主張シ又ハ被告カ貸金請求ノ訴訟ニ於テ辨濟時效混同等ノ事實ヲ合セテ主張シタル場合ノ如キ口頭辯論ニ於テ先ツ其一箇ノ方法ノ不當ナルコトヲ斷定スルヲ得テ至リ其點ノ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ訴訟ノ紛雜ヲ避ケル爲メ中間判決ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ而シテ當事者カ此ノ如ク數多ノ攻撃方法又ハ防禦方法ヲ提出シタル場合ニ於テハ先ツ其二ニ限リテ辯論ヲ爲サシムルコトヲ得ルハ第百十九條ノ規定スル所ナリ但シ辯論ノ制限ハ中間判決ヲ爲スノ必要條件ニアラス

中間ノ争トハ訴訟ノ進行中其訴訟ニ關シテ生シタル形式即チ訴訟法上ノ争ヲ謂フ例ハハ訴訟ノ必要條件ノ欠缺訴ノ原因ノ變更ノ有無ニ付テノ争訴ノ取下ノ適法ナルヤ否ヤニ付テノ争ヲ如キ是ナリ口頭辯論中斯ル争ヲ生シタルトキハ必ス終局判決ノ理由ニ於テ其判斷ヲ爲ササルヘカラサルハ實體上ノ攻撃防禦ノ方法ヲ提出シタル場合ニ於ケルト同シ故ニ此場合ニ於テモ終局判決ヲ爲

スニ先テ特ニ其争點ニ關シ中間判決ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ但シ右争點ハ判斷ニ使ミテ直ニ其訴ヲ却下スル終局判決ヲ爲スヘキトキ例ハ訴訟條件ノ欠缺アリトスルトキハ如キハ固ヨリ中間判決ヲ爲スノ餘地ナク其欠缺ナレトスル場合ニ於テノミ先ツ其旨ヲ中間判決ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ又例ハ選民事訴訟法ノ規定ニ依レハ當事者ト第三者トノ間ニ於ケル中間ノ争ニ付キ爲スヘキ中間判決アリ例ハ同法第六十八條ノ如キ從參加人ト當事者トノ間ニ生シタル參加ノ當否ニ付テノ争ハ中間判決ヲ以テ裁判スヘキ旨ヲ規定シ又第三百五十二條ノ如キハ證人ト當事者トノ間ニ於ケル證言拒絶ノ當否ニ關スル争ニ付テハ同シク中間判決ヲ以テ裁判スヘキモノトモテ然レトモ右ニ該當スル我民事訴訟法第五十七條及ヒ第三百一條ノ規定ニ依レハ此等ノ争ハ何レモ皆決定ヲ以テ裁判スヘキモノナレハ茲ニ所謂中間ノ争トシテ中間判決ヲ爲スヘカラサルモノトス

以上ノ説明ニ依リテ之ヲ觀レハ第二百七條第二項ニ規定スル抗辯ヲ棄却スル判決ハ亦所謂中間ノ争ニ付テハ中間判決ニ屬スルコト蓋シ疑ナサルハ

シ此他解ノ抗辯ニ關スル判決ニ付テハ前ニ説明シタル如ク依ニ再ヒ費セズ唯之ニ類スル請求ノ原因ニ關スル判決ニ付テハ聊カ説明ノ要アリ第二百二十八條第一項ニ曰ク請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ争アルトキハ裁判所ハ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得ト是レ亦一般中間判決ヲ許スト同シク訴訟ノ紛雜ヲ避クルノ便アラシムル規定ナリ隨テ特ニ其裁判ヲ爲スト否トハ一ニ裁判所ノ意見ニ在リ而シテ之ヲ爲スニ付テハ通例辯論ノ制限ヲ命スヘケレトモ然ラデハ場合ニ於テモ亦同シク請求ノ原因ノミニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ唯請求ノ原因及ヒ其數額中其一ニ付キ争ナキトキハ此ノ如ク原因ノ當否ヲ先決スルノ必要ヲ生セズ請求ノ原因ニ付キ判決ヲ爲ス場合ニ裁判所ハ其原因ヲ不當ナリト認定スルトキハ訴ヲ却下スヘキモノナレハ其判決ハ即テ終局判決ナリ然ラハ之ヲ正當ナリトスル判決ハ果シテ中間判決ナルヤ否ヤ請求ノ原因ノ當否ニ付テノ争ハ固ヨリ前條ニ所謂中間ノ争ト稱スヘカラスト雖モ請求ノ原因ヲ正當ナリト先決スル判決ハ訴訟ヲ終局セシムルモノニアラスシテ其先決事項ハ後ニ爲スヘキ終局判決ノ理由ニ包含スヘキモノナレハ其中間判決ヲ

ルノ性質ヲ有スルコトハ疑ヲ容レズ此他右ノ判決以後ノ手續及ヒ其結果ハ前ニ説明セル妨訴抗辯棄却ノ判決アリタル場合ト同一ナリ又ハ右ノ判決ニ對シテ右ノ如ク中間判決ハ訴訟ヲ終局セシムルモノニアラスシテ概テ皆終局判決ノ準備トシテ爲スモノナレハ原則トシテ之ニ對シテ獨立ノ上訴ヲ爲スコトヲ得ス即チ後ニ下リタル終局判決ニ附隨スルニアラサレハ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス(第三九六條第三九七條第四三三條)隨テ其後ニ生スル終局判決ト其運命ヲ共ニシ獨立シテ確定力ヲ有スルモノニアラス然レトモ中間判決ハ之ヲ爲シタル審級ニ限リ其目的ト爲リタル訴訟ノ部分ヲ終結セシメ且ツ裁判所ヲ福東スルヲ以テ(第二四〇條)當事者ハ同一審級ニ於テ再ヒ同一ノ爭點ニ付キ辯論ヲ爲スコト能ハサルハ勿論其裁判所ハ一旦自ラ爲シタル中間判決ノ旨趣ニ從ヒ爾後ノ手續及ヒ判決ヲ爲ササルヘカラス但シ右原則ノ例外トシテ獨立ノ上訴ヲ許ス中間判決アリ是レ法律カ特ニ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做スト明言スル所ノ中間判決ニシテ即チ妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル中間判決請求ノ原因ヲ正當トスル中間判決ノ如キ是ナリ此二種ノ判決ニ對シテ本案ノ終局判決ヲ待タズ

獨立ノ控訴ヲ許ス所以ハ又實際ノ便宜ニ出テタルナリ此中間判決カ不當ニシテ上級審ノ判決ニ依リ取消スルニキトキハ其後ノ終局判決ヲ爲スモ其手續並ニ效力ハ全ク水泡ニ歸スヘキヲ以テ先ツ此先決裁判ヲ確定セシムルヲ以テ便利トスレハナリ故ニ右中間判決ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ本則トシテ其確定ニ至ルマテ爾後終局判決ヲ爲スニ至ルマテノ手續ヲ中止スヘキモノトス然レトモ之カ爲メニ訴訟ヲ遲延シ原告ノ利益ヲ損傷スルコトナキヲ保セサルヲ以テ申立アルトキハ裁判所ノ意見ニ從ヒテ其確定前ト雖モ爾後ノ本案ノ辯論又ハ數額ニ付テノ辯論ヲ命シ終局判決ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(第二二八條第二項第二〇七條第二項)又ハ終局判決ト看做サルモノニシテ右二種ノ中間判決ハ單ニ上訴ニ關シテノミ終局判決ト看做サルモノニシテ其結果送達後法定ノ不變期間内ニ上訴ナキトキハ形式上確定シ其以後ニ爲シタル終局判決ニ對シテ上訴ヲ提起シタルトキト雖モ右中間判決ヲ受ケタル事項ニ付テハ更ニ上級審ノ判斷ヲ受ケルコト能ハサルニ至ルモ其性質上執行名義タルコト能ハサルハ明カナリ然ルニ尙ホ上訴ニ關シテモ又強制執行ニ關シテ

モ兩方面ニ於テ終局判決ト看做アル中此判決アリ即チ第四百二十六條ニ規定スル防禦方法ヲ主張スル權ヲ留保シタル第二審ノ判決及ヒ第四百九十一條ヲ請求ヲ爭フ權ヲ留保シタル證書訴訟ニ於ケル判決是ナリ此二箇ノモノハ全ク訴訟ヲ終局セシムルモノニアラスシテ其言渡後ニ於テモ猶ホ訴訟ハ同一審級ニ繫屬シ殊ニ爾後ノ手續ニ於テ請求ノ理由ナキコトノ顯ハルニ於テハ其判決ハ廢棄セラルルニ至ルヲ以テ之ヲ終局判決ト爲ス能ハサルハ論ヲ堪タス然レトモ其形態ニ至ラテハ全ク終局判決ト同一ニシテ執行名義タルニ差支ナシ此點ヨリ觀レハ之ヲ假ノ終局判決ト稱スルヲ得ルモノナリ而シテ法律ハ爭訟ノ落着ヲ速ナラシムルコト及ヒ債權者ノ利益ヲ保護スルコトノ目的ヲ以テ管ニ之ヲ上訴ニ關シテ終局判決ト看做スノミナラス強制執行ニ關シテモ終局判決ト看做ス旨ヲ明言セリ故ニ右判決ハ上訴ヲ攻撃スヘカラルニ至ルトキハ獨立シテ確定力ヲ有シ且ツ強制執行ノ名義ト爲ルモノナリ

第三 請求ノ拋棄又ハ認諾ニ基テ判決ハ一種ノ本案ノ終局判決ニシテ拋棄又ハ認諾

カ請求ノ全部ニ涉ルト數箇ノ請求中ノ一二若クハ一箇ノ請求ノ一分ニ限ルトニ從ヒ或ハ全部判決タルコトアリ或ハ一分判決タルコトアリ原告カ若シ其主張シタル請求ノ全部若クハ一部ヲ拋棄シタルトキハ其部分ニ付キ却下ノ判決ヲ爲スヘク被告カ若シ原告ノ請求ノ全部若クハ一部ヲ認諾シタルトキハ其部分ニ付キ敗訴ノ判決ヲ爲スヘキモノナリ而シテ認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決ハ第五百一條ニ依リ職權ヲ以テ之ニ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノトス

拋棄又ハ認諾ニ基テ判決ヲ爲スニ付テハ左ノ二條件アルヲ必要トス

(一) 口頭辯論ニ際シ拋棄又ハ認諾アルコト若シ口頭辯論ニ於テ現ニ原告カ其請求ヲ主張シ又ハ被告カ之ヲ爭フトキハ縱令原告カ既ニ拋棄ノ意思ヲ表示シ又ハ被告カ認諾ノ意思ヲ表示シタルコトノ證明アルモ所謂拋棄認諾ニ基テ判決ヲ爲スコトヲ得ヌ又縱令此意思ヲ準備書面中ニ顯ハシタルトキモ亦同シ

(二) 當事者ノ申立アルコト 口頭辯論ニ於テ原告カ請求ヲ拋棄シタルトキハ被告ノ申立ニ因リ被告カ原告ノ請求ヲ認諾シタルトキハ原告ノ申立ニ因リ始メテ拋棄又ハ認諾ニ基テ判決ヲ爲スヘキモノトス

右二條件ヲ訴訟中ニ於テ生じた事ハ即テ判決ヲ爲スニ熟スル場合ニシテ他ニ辯論又ハ證據開示爲スニ必要ナル直前ニ辯論ヲ終結セザリテ言渡ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ但シ人事訴訟ニ於テハ人事訴訟手續法第十五條第五十九條ノ規定アルヲ以テ認諾ニ基キ判決ヲ爲スコトヲ得ズ是レ此訴訟ニ於テハ公益上認諾ヲ容認セラルカ故ナリ

第四 開席判決

判決以上列舉シタルモノノ外向キ對審判決ト開席判決トニ區別スルコトヲ得對審判決トハ當事者雙方出頭シ辯論ヲ經テ言渡ス判決ナリ開席判決トハ當事者ノ一方ノ申立ニ因リ其一方ノ辯論ニ基キ言渡ス所ノ判決ナリ對審判決ハ勿論上來説明シタル手續ニ從ヒテ爲スルモノナリ開席判決ハ付テハ數多特別ノ規定アリ

左ニ之ニ關スル事項ヲ分別シテ説明セヨ

甲 開席判決ヲ爲スヘキ場合

開席判決ハ當事者ノ一方ノ懈怠ニ基キ爲ス判決ナリ而シテ懈怠トハ口頭辯

論ノ期日ニ出頭セサルカ又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲ササルコト是ナリ此他各種ノ訴訟行爲ノ懈怠ニ付テハ第百七十三條ノ一般ノ規定並ニ各場合ニ於ケル特別ノ規定アリ然レトモ茲ニハ唯開席判決ノ原因ト爲ル辯論ノ懈怠ヲ説述スルニ止メシ

當事者ノ雙方カ出頭セサル場合ニ於テハ第百八十八條第二項ノ規定ニ依リテ訴訟ハ休止ト爲ル故ニ此場合ニハ開席判決ヲ爲スヘキモノニアラス開席判決ヲ爲スニハ當事者ノ一方ノ懈怠アリテ他ノ一方ハ辯論期日ニ辯論ヲ爲スコトヲ必要トス即チ當事者ノ一方カ辯論期日ニ出頭セサルトキ又ハ出頭シタルモ辯論ヲ爲ササルカ或ハ辯論ヲ爲サスシテ任意ニ退廷シタルトキハ(不任意ノ退廷即チ秩序維持ノ爲メ辯論ノ場所ヨリ退席セラレタル場合ハ第百二十八條ノ規定ニ從ヒテ任意ノ退席ト同視スルコトヲ得)出頭セタル相手方ノ申立ニ因リ開席判決ヲ爲スヘキモノトス(第二四六條第二五〇條所謂辯論ヲ爲ササルトキハ本案ノ辯論ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ爲ササルノ謂ニシテ尙モ原告若クハ被告カ辯論期日ニ出頭シタ本案ノ争ニ付キ如何ナル原因ニ基キ如何ナル裁判ヲ得

ント欲スルヤノ説明ヲ爲シ之ヲ以テ本案ノ辯論ト看ルニ足ル以上ハ縱令其辯論カ十分ナラサルトモ其他各箇ノ事實證書又ハ裁判官ノ發問ニ對シテ陳述ヲ爲サス又ハ任意ニ退廷シタルトモ雖モ辯論ヲ爲ササルモノト謂フヘカラス簡シ其當事者ニ對シテ開席判決ヲ爲スコトヲ得ス(第二五一條唯此場合ニ於テハ第百十一條第百四十一條等ノ規定ニ依リ不利ナル推定ヲ受クルコトアルニ過キス訴訟代理人アル場合ニ於テ訴訟代理人出頭セナルモ本人カ出頭シテ辯論ヲ爲ストキハ同シテ開席判決ヲ爲スコトヲ得タルハ勿論ナリ
茲ニ所謂辯論期日トハ初ニ指定セラレ又ハ爾後變更セラレタル第一回ノ期日ノミナラス一旦其期日ヲ開始シタルモ辯論ヲ他日ニ延期シタルカ爲メ又ハ期日ニ辯論ヲ爲シタルモ完結ニ至ラスシテ其續行ノ爲メニ別ニ定メタル期日ヲモ包含ス故ニ辯論ノ延期又ハ續行ノ爲メ定メタル期日ニ當事者ノ一方カ開席スルトキハ相手方ノ申立ニ因リ開席判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ縱令其前期日ニ出頭シテ辯論ヲ爲シ又證據調ヲ了リタルトモ亦同シ(第二四九條是レ即チ口頭辯論ハ數回ノ期日ニ亘ルモ唯一不可分ノモノト爲スノ結果ナリ

是レ我民事訴訟法ノ規定シタル就落ニ關スル實體的效力ナリ隨テ就落人ハ爾後執行ノ目的物タル不動産ニ付テハ危險ヲ負擔シ又之ヨリ生スル收益ヲ取得スルハ其義務ニ付スルモノト爲ス
(2) 有權取得ノ時期ハ就賣ヲ許ス決定ノ言渡ニシテ其確定ニ非ナルコトハ民事訴訟法第六百八十六條……決定ニ因リ……ア文言カ第六百九十四條第二ノ法意ニ據リテ明白タリ蓋シ該決定ハ言渡ニ因リ有效ニ存在スルモノナレハナリ(普通不動産強制執行法第九十七條第一項亦然リ然レトモ同國法ハ該決定ニ對スル抗告ニ當然執行停止ノ效力アルコトヲ認メサルヲ以テ其理由ト爲セリ) 獨逸不動産強制執行法第八十九條亦然リ
就落許可決定ニ因リテ執行ノ目的物タル不動産ノ所有權カ就落人ニ移轉スルコト前述ノ如シト雖モ之カ爲メニ裁判所ハ差押債權者又ハ債務者ノ代理人トシテ就落許可決定ヲ以テ就落人ニ執行ノ目的物ヲ賣却スルモノト誤解スヘカラス差押債權者ハ其權利ノ満足ヲ享有スルカ爲メニ裁判所ニ對シテ法律保護ヲ求ムルノ權アルニ止マルノミナラス裁判所ハ權利關係人ノ利益ヲ保護シ又

差押債權者カ就買人タルコトヲ得ルノ點ヨリ推理セハ執行裁判所カ差押債權者ノ代理人トシテ行動スルモノニ非サルコトヲ知ルニ足ルヘシ又執行ノ目的物ノ所有者ハ其所有不動産ヲ讓渡スルニ付キ附忍ヲ爲スヘキ義務ヲ負フニ止マリ自ラ取引ヲ爲スモノニ非ス隨テ追索擔保ノ責ヲ負フコトナク又就買人タルコトヲ得ル點ヨリ推理セハ執行裁判所カ債務者ノ代理人ニ非サルコトヲ知ルニ足ルヘシ執行裁判所ハ當事者ノ代理人トシテニ非ズシテ公ノ職務トシテ強制執行ニ付キ指揮ヲ爲スモノタリ此間ノ職務ハ總テノ利害關係人ノ爲メニ正當ナル滿足ヲ享有セシメ且ツ之カ目的ニ達スルニ必要ナル法律行為ヲ實行スルコトタリ執行裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リテ此職務ヲ行ヒ當事者ノ委任ニ因リテ此職務ヲ行フヘキモノニ非ス故ニ申立債權者ハ執行裁判所ニ對シ委任關係ニ基テ訴ヲ爲スコトヲ得ス此點ハ執行裁判所ニ對シテ其職務ニ基テ執行裁判所ニ對シテ單純ナル民法上ノ買賣契約ニ非ス執行裁判所ハ就賣許可決定ニ因リテ裁判上買賣ノ賣主トシテ就賣人ニ執行ノ目的物ノ所有權ヲ移轉セ又其後ノ職務ニシテ就賣人ニ執行ノ目的物ノ占有ヲ得ルモノナルヘシ

ヲ然レドモ這ハ民法上ノ賣主タルノ義務ノ履行ニ非ス其他就賣人ハ民法上ノ賣主ニ於ケルカ如ク執行裁判所カ差押債權者債務者ニ對シ履行ノ訴追權擔保ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス何トナレハ此等ハ民法上ノ賣主ニ非ズレハナリ(ハ)就賣人ハ代金全額ヲ支拂ヒタル後ニ於テ執行ノ目的物タル不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得就賣人ハ就賣許可決定ニ因リテ所有權ヲ取得スルカ故ニ各所有權ハ同シタリ目的物ノ占有ヲ爲スコトヲ得ルハ當然ナリ占有者タル債務者カ其占有シタル不動産ヲ任意ニ就賣人ニ引渡サザリシトキハ就賣人ハ所有者トシテ債務名義タルヘキ就賣許可決定ニ基キ執行裁判所ノ助力ヲ要セスシタ民事訴訟法第七百三十一條ニ依レハ執行方法ニ因リ其目的ヲ達シ執行裁判所ニ申立テ爲シ該裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ就賣人ニ引渡サレハ蓋シ強制就賣手續ハ執行裁判所カ職務ヲ以テ行フモノナレハナリ占有者タル第三者カ任意ニ就賣人ニ引渡ヲ爲サザルトキハ所有權ハ主張ニ關リテ占有ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ買賣契約ニ基テ引渡請求權ハ就賣人ノ有キタル所ナリ何トナレハ就賣ハ私法的買賣ニ非ザレハナリ

競落人カ不動産ノ引渡ヲ求ムルハ其前提トシテ代金全額ノ支拂ヲ爲シタル
コトヲ要ス是レ利害關係人ノ爲メニ競落人ノ處分ヨリ生ズル損害ヲ防止スル
ノ法意ニ外ナラス代金全額ノ支拂トハ代金全額ノ支拂若シハ供託ニシテ相殺
ニ依レル債權額ノ受領ニ非ナルヲ明白ナリ
引渡ハ執行裁判所カ執行力アル競落許可決定ニ基キ債務者若クハ其承繼人ヨ
リ執行ノ目的物ヲ取上ケテ爲スモノナルカ故ニ一ノ執行處分タルヲ言フ決
スルハ其前提トシテ代金全額ノ支拂ヲ爲シタルコトヲ要ス
法律ハ競落人及ヒ代金上ニ満足ヲ享有スル權アル債權者ノ權利ヲ保護スルノ
目的ヲ以テ競落許可決定後引渡アルマテ執行裁判所ヲシテ此等ノ者ノ申立ニ
執行ノ目的物タル不動産ヲ特定ノ管理人ニ管理セシムヘキ旨ノ命令ヲ發スル
コトヲ得セシメタル該管理ハ強制管理ノ如ク執行處分ノ性質ヲ有スルモノニ
非スシテ競落人及ヒ債權者ヲ保護スルカ爲メニスル單純ナル管理處分ナリ故
ニ強制管理ハ競落許可決定以後ニ於テ存續スルコトヲ得サルモノナレトモ此
裁判上ノ管理ハ却テ競落許可決定以後ニ於テ發生スルモノナリ該管理ヲ求ム

ル申立ニ付キ法律上何等ノ方式ヲ規定セサルヲ以テ口頭又ハ書面ニテ該申立
ヲ爲スコトヲ得又競落人若クハ債權者ハ代金全額ノ支拂アルマテ何時ト雖モ
該申立ヲ爲スコトヲ得競落期日ニ於テ亦然リ唯此場合ニ於テハ競落許可ノ決
定アルコトヲ前提要件ト爲スノミ而シテ競落人ハ最高競買價額ノ範圍ニ於テ
裁判上ノ管理ヲ求ムル債權者ノ取立額ニ適當スル保證ヲ此債權者ノ爲メニ立
テテ以テ該申立ヲ妨タルコトヲ得ヘシ此申立ニ基キ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシ
テ之ヲ爲スコトヲ得而シテ此場合ニ於テハ該裁判ヲ申立人競落人申立人ニ非
タル場合及ヒ執行ノ目的物ヲ占有セル債務者ニ送達セサルヘカラス(第二四五
條)又此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得第五八條債
務者カ裁判上ノ管理命令ニ應ジテ任意ニ執行ノ目的物ヲ管理人ニ引渡スコト
ヲ拒ミタルトキハ執行裁判所ハ該命令ノ實行トシテ競落人若クハ債權者ノ申
立ニ因リ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡シシメテ
ルヘカラス執達吏ハ執行裁判所ノ委任アルニ非スンハ裁判上ノ管理命令ニ基
キ行動ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ競落人ハ代金全額支拂以前ニ於テ執行ノ目的物

ノ引渡ヲ求ムル權ヲ有セザレハナリ(第六八七條)普滿西不動産強制執行法第九
八條)總て不動産強制執行法第九三條) 債權ノ行使ニ關シテ、債權人ハ特別ノ賣却條件ノ存セサル限ハ(配當額ト差引スヘキ特約ノ如キ)競落
ヲ許ス決定ノ確定以後ニ於テ裁判所カ職權ヲ以テ定ムヘキ期日ニ代金ヲ支拂
フヘキ義務ヲ負フ(第六九三條)第一項)普滿西不動産強制執行法第一〇一條)第
一項)總て不動産強制執行法第一〇七條)此義務履行即チ代金ノ支拂ハ裁判所ニ爲
スヘキモノトス(第六九四條)第二項)普滿西不動産強制執行法第一〇二條)第二項)
總て不動産強制執行法第一〇七條)第二項)裁判所ノ代金ヲ受領スル資格ハ代金
ヲ各債權者ニ配當スヘキ義務アル國家ノ代表機關モシテ債權者ノ代表者ニ非
ス又債務者ノ代表者ニ非ス何トナレハ債權者ノ債務者ニ對スル債權ハ代金上
ニ滿足ヲ享有スルニ因リテ消滅シ又債務者ハ代金ノ處分ニ付キ何等ノ權能ヲ
有セザレハナリ裁判所ノ受取リタル金錢ニ付キ何人カ所有ノ權能ヲ有スルヤ
ノ問題ニ關シテハ總て法律家ノ見解ニ派ニ岐レタルコトハ世人ノ知ル所ナリ
「デンプル」氏ハ執行手續カ債務者ノ名ニ於テ實施セラレザルヲ理由トシテ代

金上ニ所有權ヲ有スル債權者ニ非スシテ代金ノ配當ニ與ル債權者ナリト
主張シ「ライデル」其他二三ノ大家ハ債務者ヲ以テ所有者ナリト主張シタル余輩
モ事後説ヲ主張セント欲ス蓋シ債務者ハ競落ニ因リテ其目的物タル不動産ニ
代リテ生シタル代金ノ所有者ニシテ唯差押不動産ニ於ケルト同シタ其代金ニ
處分權ヲ有セザルニ過キザレハナリ代金ノ支拂供託ハ債務者ノ計算ニ於テ又
其危險ニ於テ爲サタルカ故ニ殘餘額ハ債務者ニ歸屬シ又裁判所ノ受領後代金
カ天災其他ノ不可抗力ニ因リテ喪失シタルトキハ競落人ハ更ニ代金ノ支拂ヲ
請求セザルルコトナシ(裁判所ニ代金ヲ支拂フニ因リテ競落人タル義務ヲ完全
ニ履行シタルモノナレハナリ)競落人ハ執行ノ目的物カ果實其他金錢ニ見積ル
コトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ代金ノ外ニ賣却代金トシテ競落決定
當渡ヨリ代金支拂ヲテ法定利息ヲ支拂ハサルヘカラス(第六九四條)第二項)第
五七五條)普滿西不動産強制執行法第五七條)第六項) 是レ競落人ハ競落決定當渡ヨリ執行ノ目的物ニ關スル收益權ヲ有スルカ故ナ
リ(第六九四條)第二項) 是レ競落人ハ競落決定當渡ヨリ執行ノ目的物ニ關スル收益權ヲ有スルカ故ナ
リ(第六九四條)第二項)

(D) 配當手續 配當手續ノ法理ニ關シテハ前述シタル説明ヲ參考スヘシ第六九一條我民事訴訟法ニ依レハ執行、裁判所ハ職權ヲ以テ賣却代金ノ配當ヲ實施スルヲ原則トス然レトモ此裁判上ノ配當ハ協議配當ノ行ハレタル場合ニ限リ爲スヘキモノナルヲ以テ若シ利害關係人カ信用スヘキ證據殊ニ公正證書ヲ以テ配當ノ協議調ヒタルコトヲ裁判所ニ對シテ證明シタルトキハ實施スヘキモノニ非ナルヲ明瞭ナラ左ニ配當手續ノ進行ノ大要ヲ説明スヘシ

(甲) 法律上配當要求ノ效力ヲ生スル申立ヲ爲サザラシ債權者ハ就落期日ノ終ニ至ルマテ執行裁判所ニ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得其手續ハ前述シタル所ト同一ナルヲ以テ省略ス第六四五條第二項第六四六條第六四七條第五八七條第五九〇條第五九一條第五九二條)

(乙) 執行裁判所ハ就落期日ヲ許ス決定ノ確定後ニ於テ職權ヲ以テ代金ノ支拂及ヒ其配當ノ爲メニ期日ヲ指定セザルヘカラス而シテ該期日ニハ利害關係人執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求シタル債權者及ヒ就落人ヲ呼出スヘシ(第六九三條普通面不動產強制執行法第一〇一條)獨逸不動產強制賣法第一〇五條

普通面及ヒ獨逸ノ法律ニ從ヘテ就落期日決定後職權ヲ以テ期日ヲ指定シ該決定ニ對シ抗告アリタルモ其期日ヲ廢棄スルモノノ如シ(1)期日ノ第一ノ目的ハ配當スヘキ財産ヲ確定スルニ在リ第六九四條第一項普通面不動產強制執行法第一〇二條第一項獨逸不動產強制賣法第一〇七條第一項配當スヘキ財産即チ賣却代金ハ就落代金及ヒ其支拂マテノ利息ヨリ成ル最高價購買ノ保證ノ爲メニ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入シ以テ計算スルノ努力ヲ省略ス但シ保證ノ目的物カ有價證券ナルトキハ裁判所ノ命令ニ基キテ之ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ就落代金中ニ算入スルモノナルヲ認テ第六九四條普通面不動產強制賣法第一〇二條第一〇三條獨逸不動產強制賣法第一〇七條第一〇八條(2)期日ノ第二ノ目的ハ賣却代金ヲ配當スルニ在リ配當ノ實施ハ配當表ニ基キテトヲ要ス執行裁判所ハ各債權者カ就落期日マテ差出シタル計算書ニ基キ第六九二條配當ノ期日ニ於テ配當表ヲ作成シ第六百九十六條ニ依レハ賣却代金ハ期日ニ於テ確定スヘキモノナルヲ以テ配當期日ニ配當表ヲ作成スヘキモノナルヲ當然ナリ且之ヲ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金利息費用及ヒ配當ノ

順位民法商法特別法ニ定ムル所ニ依ル第六九一條並ニ其割合ヲ記載セザルハ
カラス第六九六條第一項但シ期日ニ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力
アル正本ニ依ラスシテ配當ヲ要求スル債權者カ配當ニ關シ一致シタルトキハ
其一致ニ基キ配當表ヲ作ルヘシ是レ裁判上ノ配當ハ此等ノ者ノ爲メニ爲スモ
ノナルヲ以テ此等ノ者ノ意思ニ反スル配當ヲ爲スノ必要ナクレハナリ第六九
六條第二項普通西不動産強制執行法第一〇五條而シテ執行裁判所ハ尙ホ此等
ノ者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス第六九五條普通西不動産強制執行法及ヒ獨逸
不動産強制執賣法ニ依レハ配當表ニハ土地臺帳ニ於テ明瞭ナル債權執行ノ原
因タル債權及ヒ執行手續ニ於テ届出タル債權ヲ記載スヘキモノトシ其届出ハ
配當期日以前ニ於テ期日ニ出頭スルコト能ハサル債權者ハ期日前ニ届出ヲ爲
スヲ通例トス又ハ期日ニ於テ之ヲ爲シ裁判官ハ期日ニ於テ出頭シタル利害關
係人ヲ訊問シタル後ニ於テ配當表ヲ作成シ而シテ配當期日以後ニ於テハ債權
額ノ補充ヲ許タス是レ不動産ニ對スル強制執行ニ於テハ配當ハ動産ニ對スル
強制執行ニ於ケル配當ニ比シ手續ハ煩雜ナル所ヲ以テ專ラ書面ニ依ラズ

期日ニ於テ利害關係人ヲ訊問シテ其口頭陳述ニ基キ配當表ヲ作成セシムルヲ
法意ニ基ケルナリ然ルニ我民事訴訟法ハ第六百九十一條ニ於テ就審期日マテニ
計算書ヲ差出サシメ且ツ之ヲ差出ササル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二
項ヲ準用シテ債權額ノ補充ヲ許ササルニモ拘ラス民事訴訟法第六百九十五條
ニ於テ利害關係人等ヲ訊問シテ配當表ヲ確定作成ノ意ナルヘシスヘシト云フ
ハ解スヘカラサルノ法規ナリト謂ハサルヘカラス普通西不動産強制執行法第
一〇四條第一〇六條

配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當ノ實施ニ付テハ通則トシテ民事訴訟法第
六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス第六九七條特則トシテ異議ニ關シテ之ヲ言ハ
ハ期日ニ出頭シタル債權者ハ自禦方法トシテ出頭セタル債權者ニ對シテハ民
事訴訟法第六百三十二條準用各債權者ノ債權ノ成立並ニ順位ニ對シ異議ヲ申
立ツル權利ヲ有ス而シテ異議ヲ申立テラレタル債權者ノ債權カ執行スルコト
ヲ得ヘキモノナルトキハ民事訴訟法第五百四十五條第五百四十七條及ヒ第五
百四十八條ノ規定ニ從ヒテ其異議ヲ完結シ執行スルコトヲ得タルモノナルト

其ノ導引即チ民事訴訟法第六百三十三條及第六百三十五條ノ規定ニ從テ其異議ヲ完結ス普滿面不動產強制執行法ニ於テハ此場合ニ於テ債權者ヨリ債務者ニ對シ確證ノ訴ヲ提起スヘキ旨ヲ規定シタル普滿面不動產強制執行法第一一三條第一一四條我民事訴訟法第六百九十七條ノ當然ノ適用トシテ異議ヲ申立テタル債務者ヨリ起訴スヘキモノト論結セラルヲ得タルハ法實ニ缺點ト頭フヘシ(第五九一條參考又期日ニ出頭シタル債權者ハ(出頭セタル債權者ニ對シテハ民事訴訟法第六百三十二條準用自己ノ利害ニ關シ他ノ債權者ニ對シ其債權ノ成立並ニ其主張シタル順位ニ對シ異議申立ノ權アリ自己ノ利害ニ關セタルモノニ付テハ何等ノ實益ナキヲ以テ異議申立ノ權ナキヤ當然ナリ故ニ第一順位ノ債權者ハ第二順位ノ債權者ノ爲メニ異議ヲ申立ツルコトヲ得スニ配當ノ實施ニ關シテ之ヲ言ハハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ配當ノ實施後民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ニ依リ競落人ハ競落不動產ノ權利ヲ喪失スルコトアルヲ以テ法律ハ配當ノ實施後ニ爲スヘキモノト規定シタルモノナラバ結果シテ餘ラハ競落人ノ義務履行ノ完済後ト規定スルヲ偏見トシテ配當調査及ヒ

競落許可決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シ第一競落人ノ所有權ノ登記第二競落人ノ引受ケタル不動產上負擔記入ノ抹消第六四九條第三民事訴訟法第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ囑託セラルヘカラス而シテ此等ノ登記及ヒ抹消ハ何レモ競落人ノ利益ノ爲メニスルモノナルヲ以テ之ニ關スル費用ハ總テ競落人ノ負擔ニ歸ス(第七〇〇條普滿面不動產強制執行法第一二四條)

(丙)競落人ハ法定賣却條件ニ從ヒテ期日ニ裁判所ニ對シ賣却代金ヲ支拂フヘキ義務アルコトハ前述シタル所ナリ然レトモ競落人ハ自己ノ利益ニ從ヒテ期日前ニ賣却代金ヲ供託スルコトヲ得ルハ明瞭ナル法理ナリ唯該供託ノ期日ニ於テハ代金支拂ト同一ノ效力ヲ有スルニハ競落人カ遅クモ期日ニ於テ該供託ヲ立證セサルヘカサルノミ

賣却代金ハ現金ヲ以テ支拂フヲ原則トス然レモ引受又ハ相競ヲ以テ之ニ代ルコトアリ競落人ハ配當ノ實施ニ際シ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ額ニ滿タルマテ其支拂ニ代ヘテ買入代金上ニ満足ヲ求ムルコトヲ得ヘキ債權ヲ引

受タルコトヲ得此引受ハ債權ニ付テノ現實支拂ヲ求ムル權利ヲ拋棄シタル債權者ト就落人トノ合意ニ基クモノニシテ債務者ハ現金支拂ニ因リテ債權者カ満足ヲ享有スヘカリシ程度ニ於テ免責シ就落人カ爾後之ニ代リテ義務ヲ負フノ效力ヲ生ス故ニ其性質ハ大ニ民法上ノ更改ト類似スト謂フヘシ就落人カ同時ニ債權者ナルトキハ其債權ノ配當額ト其支拂フヘキ買入代金ト相殺シテ買入代金支拂ノ義務ヲ免ルルヲ明白ナリ而シテ法律ハ何レノ場合ニ於テモ引受タヘキ債權又ハ相殺スヘキ就落人ノ債權ニ對シ適法ナル異議第六九八條アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ハシメ又ハ保證ヲ立テシメ以テ利害關係人ノ利益ヲ保護シタリ(第六九九條)普通漏面不動産強制執行法第一一六條

(四)再就賣 就落人カ代金支拂期日ニ於テ其義務ヲ完済セザルトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再就賣ヲ命ス

不動産ノ再就賣ハ動産ノ再就賣ト異ニシテ(第五七七條)獨逸舊民事訴訟法第七一八條債務者ニ對スル執行手續ノ再施ニ非スレテ更ニ就落人ニ對スル執行手續ノ新ナル開始ナリ義務不履行ノ爲メニ就落人ノ所有權取得ヲ解除スル解除

條件者タハ就賣タル賣買ニ存スル解除約款ノ作用ニ非スレテ却テ就落代金上

ニ満足ヲ受タル權利アル債權者ヲ債權者トシ該代金ノ支拂義務者タル就落人ヲ債務者トシテ行フ不動産ニ對スル一ノ強制處分タリ法律ハ再就賣ナル特別固有ノ制度ヲ設ケ以テ就落人ニ對スル代金支拂ヲ目的トスル訴訟ニ就落人ノ財産ニ對スル強制執行ノ途ノ外ニ於テ尙ホ就落ノ代金上ニ満足ヲ求ムル權利ヲ有スル債權者ノ利益ヲ保護シタリ是ヲ以テ再就賣ハ以前ノ就賣ノ再開ニ非スシテ就落人ノ所有ニ屬シタル不動産ニ對シ該就落代金上ニ満足ヲ求ムル債權者ノ債權ノ爲メニ行フ新手續ナリト謂フヘシ(第六八八條)普通漏面不動産強制執行法第一二八條第一項(性質)

再就賣ハ此ノ如ク就落人ニ對スル一ノ強制處分ナルヲ以テ(一)就落人ハ再就賣ニ於テ新就落人ニ就賣ヲ許可セザルルマデハ就落不動産ノ所有者タルコトヲ當然トス(二)就落人ハ再度ノ就落代價カ最初ノ就落代價ヨリ低キトキハ其不足額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔ス(三)再度ノ就落代價カ最初ノ就落代價ヨリ高キトキハ其剩餘額ハ理論上就落人ノ所有ニ歸スルモノタリ故ニ斯ル論法ハ(一)ヒテ

評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム蓋シ期ル方法ニ依ルニ非ズンハ正確ナル持分ノ最低就賣價額ヲ定ムルコト能ハサレハナリ(第六八九條普通西不動產強制執行法第一條獨逸不動產強制就賣法第一條)

(G) 入札拂 入札ヲ以テ不動產ヲ公賣スルハ我國ノ慣習ナリ故ニ我民事訴訟法ハ入札拂ノ不動產公賣方法ヲ採用シ就賣ニ換フルコトヲ許セタリ

入札拂トハ執行裁判所カ就賣期日ヲ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ命スルコトヲ得ヘキ書面ノ就賣ノ申立即チ入札ニ依レル就賣ナリ前述シタル通常ノ就賣ト異ナル所ハ最高價ヲ定ムルニ付キ口頭就賣ノ申立ニ因ラヌシテ書面就賣ノ申立ニ因ルコト是ナリ(第七〇二條(定義))

入札拂ノ手續ハ通則トシテ就賣ノ規定ニ準據ス(第七〇二條特則トシテ(1)入札ニハ第一入札人ノ氏名及ヒ住所第二不動產ノ表示第三入札價額(定ノ額ヲ以テ入札價額ヲ表示セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表示シタル入札ハ之ヲ許サヌ)記載セタルレカラス該要件ノ一ヲ缺クトキハ入札タルヲ效ナシ(第七〇三條第三項第七〇四條第三項(2)入札ハ入札期日ニ封緘シテ執

達吏ニ差出スヘシ(第七〇三條第一項第七〇四條第一項)開封……(3)執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シテ朗讀ス是レ公平ヲ確保スルノ注意ニ出

テ第七〇四條第一項(4)執達吏ノ開封朗讀ノ結果最高價入札人トシテ呼上ラレタル者ハ利害關係人ノ求ニ因リ保證ヲ立ツル義務ヲ負フ若シ之ヲ拒ムトキハ次位ノ入札人カ最高價入札價額ノ差額ヲ支拂フノ義務ヲ負フ(第七〇五條二人以上同價額入札者アルトキハ執達吏ハ増額ノ爲メ追加入札ヲ爲サシメ以テ最高價入札人ヲ定ム若シ追加入札ヲ拒ムトキハ法律上明文ナシト雖モ民事訴訟法第七百二十五條ヲ準用スヘキモノト思ハル)強制就賣ヲ終ルニ臨ミ一言注意スヘキハ數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ同一不動產ヲ差押フルコト是ナリ同一不動產ニ重複ノ差押ヲ爲スコトハ費用勞力省略ノ目的ニ反スルヲ以テ法律ノ認メタル所ナレトモ(第六四五條同時ニ同一不動產ヲ差押フルコトハ差押債權者ノ權利ニ差等ヲ設ケルコト能ハサル結果トシテ之ヲ許ササルヲ得ス而シテ其手續ハ毫モ前述ノ手續ト異ナルヘキ謂レナシ是レ民事訴訟法第七百二十一條ノ規定アル所以ナリ(第六一九條參考)

(三) 強制管理

強制管理ハ強制競賣ト同ク不動産ニ對スル強制執行ノ一方法ニシテ債權者ヲシテ債務者ノ不動産ニ付キ満足ヲ得セシムル目的トス然レトモ強制競賣ハ執行ノ目的物タル不動産ノ賣得金上ニ満足ヲ得ル執行方法ニシテ強制管理ハ債權者ノ所有ニ屬スル不動産ノ果實ニ付キ満足ヲ得ル執行方法ナリ故ニ前者ハ一ノ讓渡行為ニシテ後者ハ讓渡行為ニ非ス隨テ強制競賣ノ執行ノ目的物カ讓渡スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テ行ハレタレトモ強制管理ハ之ニ反シテ斯ル場合ト雖モ有效ニ行ハル又強制管理ハ執行ノ目的物カ果實ヲ產出セタル場合果實ヲ生セタル土地住居ニ適スル程度ニ達マサル新築建築ニ於テ行ハレタレトモ強制競賣ハ之ニ反シテ斯ル場合ト雖モ有效ニ行ハル五三二ノ強制管理ハ強制競賣ト同一ノ原因及ヒ同一ノ目的ヲ有スル限度ニ於テ後者ノ法則ハ前者ニ準用セラザルモノナリ隨テ強制管理ニ特別ナル法則アルハ孰レモ該執行方法ノ特色ヨリ生シタルモノト知ルハシテ強制管理準備手續管理手續並ニ終局手續等ヲ略述スヘシ焉

(A) 管理準備手續 執行裁判所ハ強制競賣開始決定ヲ爲ス場合ト同ク債權者ノ申立ニ因リ強制管理ノ開始決定ヲ爲ス該申立ニハ強制競賣ノ申立ニ於ケルト同シク民事訴訟法第六百四十二條ニ規定シタル要件ヲ具ヘ且ツ民事訴訟法第六百四十三條ニ規定シタル證書ヲ添附セザルヘカラス(第七〇六條)普漏西不動産強制執行法第一三九條第一項獨逸不動産強制競賣法第一四六條是レ強制管理ハ強制競賣ト同シク債務者ノ所有權若クハ少クモ收益權ヲ前提要件トシ且ツ債權者ハ斯ル證明ヲ爲スヘキ必要アルニ基ケリ但シ執行ノ目的物タル不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負ヒタル場合即チ債權者ノ爲メニ執行ノ目的物上ニ物上擔保質抵當ノ設定セラレタル場合ニ於テハ債權者ハ民事訴訟法第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出スヘキ證書トシテ債務者カ不動産ヲ占有所有ノ意思ヲ以ナスル占有所コトヲ疏明スル證書ヲ提出スルヲ以テ是レヲ盡シ強制管理ハ債權者ノ所有權ヲ喪失セシムル結果ヲ生スルモノニ非サルノミナラス債權者ハ他物權者トシテ其權利ヲ所有權の占有者ニ對シ對抗スルコトヲ得ヘキヲ以テナリ(第七〇六條第二項)普漏西不動産強制執

行法第一三九條第二項獨逸不動産強制競賣法第一四六條ニ依リ、執行裁判所ハ職權ヲ以テ強制管理ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入スヘキ旨ヲ登記判事ニ囑託シ又租税其他ノ公課ノ主管スル官署ニ強制管理ノ決定ヲ爲シタル旨ヲ通知シ其目的物タル不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出フヘキコトヲ期間ヲ定メテ催告ス第七〇六條第一項第六五一條第六五四條而シテ登記判事ハ民事訴訟法第六百五十二條ニ規定シタル手續ヲ盡ナサルヘカラス第七〇六條第一項第六五二條斯ル手續ノ必要ハ強制競賣ニ於ケルモノト同一ナリ

執行裁判所ハ強制管理ノ申立ヲ正當ナリト認メタルトキハ強制競賣ニ於ケルト同シク強制管理開始ノ決定ヲ爲ス該決定ニ於テハ債權者ノ爲メニ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言シ且ツ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動產ノ收益ノ給付ヲ爲スヘキ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲スヘキコトヲ命ス第七〇七條第一項第七〇六條第六四四條第一項普通漏西不動産強制執行法第一三九條第一四

三條第二項獨逸不動産強制競賣法第一四八條該決定ハ之ヲ債務者ニ送達スルニ因リ又第三者ニ對シテ之ニ送達スルニ因リテ效力ヲ生ス第七〇六條第一項第六四四條第三項第七〇七條第三項普通漏西不動産強制執行法第一三九條獨逸不動産強制競賣法第一四六條第二項而シテ債務者ハ管理開始決定ノ送達以後ニ於テハ執行ノ目的物タル收益ニ付キ處分ヲ爲スノ權能ヲ喪失シ已ニ收獲シ若クハ收獲スヘキ又ハ期限ノ到來シ若クハ到來スヘキ果實ハ該收益ニ屬ス第七〇七條第二項普通漏西不動産強制執行法第一四〇條第一項下段債務者カ執行ノ目的物上ニ住居シタルトキハ債務者及ヒ其家族ニ必要ニシテ管理ノ爲メニ必要ナラサル部分ハ當然債務者及ヒ其家族ノ爲メニ之ニ放任セラルヘキモノナリ執行裁判所ハ該部分ノ範圍及ヒ債務者並ニ其家族カ執行ノ目的物若クハ其強制管理ヲ害スル場合ニ於テ該放任處分ヲ取消スコトニ付テノ權限ヲ有スルヤ言フ埃タス普通漏西不動産強制執行法第一四一條獨逸不動産強制競賣法第一四九條其他強制管理ノ範圍ハ債權者ニ特別ナル申立ニ因リテ制限セラル例ヘハ債權者甲不動産ノ收益ノ一部分ヲ執行の満足ニ供シ其他ノ部分ヲ債務者ノ爲

之ヲ放任スルヲ申立テ爲スカ如シ是レ執行ハ債權者ノ惠益ノ爲メニスル
 モノナルヲ以テ強制管理ノ範圍ヲ定ムルニ付キ債權者ノ意思ヲ標準ト爲ス
 ト要スレハナリ
 執行裁判所ハ強制管理ノ申立テ理由ナセト認メタルトキ殊ニ強制管理力不働
 産ノ賃借權ニ對シテ申立テラレタルトキハ該申立テ却下セサルヘカラス蓋シ
 強制管理ハ不動産ノ所有者若クハ所有占有者ニ對シテノミ行ハル執行方法タ
 故ニ不動産ノ賃借權ニ對シ強制管理ヲ申立ツルカ如キハ法律ノ許ス所ニ非
 サレハナリ而シテ該權利ニ對スル強制執行ハ民事訴訟法第六百二十五條ニ依
 ルヘキコトハ前述シタル所ナリ總テノ不動産ハ強制管理ノ目的物タルコトヲ
 得ス收益ヲ生セサル債務者ノ財産ハ勿論已ニ強制管理ノ開始決定アリタル不
 動産ニ付キ更ニ強制管理ノ開始決定ヲ爲スコトヲ得サルハ強制就賣ノ場合ト
 同一ナリ(第七〇八條第六四五條其理由ハ強制就賣ニ於テ説明シタルモノト同
 ナレハ茲ニ之ヲ省略ス)強制管理開始決定
 執行裁判所ハ決定ヲ以テ(1)査押債權者ヲ強制管理ヲ求ムル申立テ取下クタル

トキ②登記判事ノ通知ニ因リ豫メ知ルニ於テ手續ノ開始ヲ妨グヘキ事實ハ顯ハルルトキ(此場合ニ於テ情況ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ債權者カ裁判所ノ定メタル期間内ニ手續進行ノ障礙ノ消滅シタル旨ノ證明ハ盡ササルトキニ手續ヲ取消ス)第七〇六條第一項第六五三條普通面不動産強制執行法第一三九條第二〇條獨逸不動産強制賣法第一六一條第四項③管理銀行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スル場合ニ於テ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セザルトキ第七一六條第三項第五七一一條普通面不動産強制執行法第一五四條第二項獨逸不動産強制賣法第一六一條第三項④民事訴訟法第五百五十條第五百五十一條ノ規定モ從ヒテ手續ノ取消ヲ爲スヘキトキニ於テ強制管理ヲ取消ス此取消ニ付キ執行裁判所ノ決定ヲ要スルハ若シ然ラザレバ執行裁判所ノ委任ニ依リ職務ヲ取扱フ管理人カ他ノ債權者ノ爲メニ已ニ差押アリタルヤ否ヤヲ知ルコトヲ得ザレハナリ第七一六條第一項普通面不動産強制執行法第一五四條第一項獨逸不動産強制賣法第一六一條第一項面シテ手續ノ取消ヲ表示シタル受附裁判所ノ決定ハ執行裁判所ノ取消ノ決定ニ代ルヘキモノナリ何トナレハ一旦適法ニ取

治ラレタル手續ハ更ニ取消スヘキ旨ヲ表示スヘキモノニ非ナレハナリ
執行裁判所ハ總テノ利害關係人ノ中立又ハ第三者並ニ債務者ノ申立ニ因リテ
手續ヲ停止スルコトアリ(第五四四條)管理手續ノ停止及ヒ取消

(B)管理手續 執行裁判所ハ強制管理ノ爲メニ適當ナル管理ヲ任命ス第七一
條第一項獨逸不動産強制執賣法第一五〇條第一項普通面不動産強制執行法第
一四二條管理人ノ任命ハ管理開始決定ニ於テ又ハ爾後特別ノ決定ヲ以テ之ヲ
爲シ又執行裁判所ハ任命權アルト同時ニ適當ナル管理人ヲ選定スルノ義務ヲ
負フ債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得ルト雖モ之ヲ管理人ニ任命スヘキ
ヤ否ハ裁判所ノ自由ニ判斷スル所ナリ而シテ裁判所カ不適當ナル人ヲ管理
人ニ任命シ若クハ適當ナル管理人ヲ解任シタル場合ニ於テ該決定ニ對シ利害
關係人カ抗告ヲ爲スコトヲ得ルハ毫モ疑ナキ所ナリ(普通面不動産強制執行法
第一四二條(任命))

強制管理ニ於ケル管理人ハ正當ナル見解ニ從ヘハ執行當事者ノ一方ノ代理人
若クハ承繼人ニ非スシテ執達吏若クハ破産管財人ト同シタ公ノ職務トシテ強

制管理ノ形式ニ於テ認メラレタル國家ノ法律保護ヲ有效ナラシムルカ爲メニ
債務者ノ權利ヲ行使スル機關タリ故ニ管理人ハ管理ニ必要ナル範圍内ニ於テ
管理ヲ爲シ又處分ヲ爲スノ權限ヲ有ス殊ニ管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ
執行ノ目的物タル不動産ヲ占有スルノ權ヲ有シ又債務者ニ代リテ第三者ノ給
付スヘキ收益ヲ取立ツルノ權ヲ有ス

債務者カ執行ノ目的物ヲ占有シタル場合ニ於テ管理人ニ之ヲ占有セシムルコト
ヲ拒ミタルトキハ執達吏ヲ立會ハシメテ債務者ノ抵抗ヲ除去スルコトヲ得第
七一一條第二項末段第五三六條獨逸民事訴訟法第七七條第三者カ執行ノ目
的物ヲ占有シタル場合ニ於テ管理人ニ之ヲ占有セシムルコトヲ拒ミタルトキ
ハ執達吏ヲ立會ハシメテ第三者ノ抵抗ヲ除去スルコトヲ得蓋シ強制管理ハ
第三者ノ完全ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得サレハナリ隨テ賃借人ハ賃
貸借ノ存スル限リ占有ヲ繼續スルコトヲ得管理人ハ債務者カ解約權ヲ有スル
場合ニ於テ解約ヲ爲スコトヲ得ルノミ(獨逸不動産強制執賣法第五二條蓋シ
強制管理ハ第三者ノ完全ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得サレハナリ而シ

テ第三者ノ占有カ差押以後ニ係リ或ハ單純ナル占有ニシテ法律上占有スヘキ權利ニ基カス或ハ差押以前ニ係ルト雖モ己ニ第三者カ債務者ニ對シ明渡ノ義務ヲ負ヒタルカ如キ場合ニ於テハ執行債權者カ第三者ニ對シ引渡ヲ目的トスル勝訴ノ判決ヲ得テ管理人ノ占有ヲ全カラシムルコトヲ得但シ第三者カ執行ノ目的物タル不動産ニ付キ強制管理ヲ妨クルノ權利例ヘハ不動産權利ノ如キヲ有スルトキハ之ニ基キ執行參加ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルヤ當然ナリ(第七一三條本條ハ不必要ノ條文タリ第五四九條)

第三者カ執行ノ目的物タル不動産ニ付キ地上權、永小作權ノ如キ物權又ハ賃借權ノ如キ債權ヲ有スル結果トシテ不動産ノ所有者ニ對シ果實ヲ給付スヘキ義務ヲ負フ場合ニ於テ管理人ハ其任命ニ因リ當然該收益ヲ取立テ必要ノ場合ニハ之カ爲メニ訴ヲ提起スルノ權ヲ有ス(第七一一條第三項)普通西不動産強制執行法第一四二條第三項條文中「債務者ニ代リ」トハ管理人ハ實體上債務者ノ權利ヲ主張スルコトヲ示シタルニ止マリ債務者ノ代理人トシテ其權利ヲ行使スルコトヲ示スモノニ非ナルコトハ「ヒタル民ノ普通西不動産強制執行法

論ニ依ルモ明白ナリ)

管理人ハ強制管理ノ爲メニ代理人ヲ用フルコトヲ得ルヤ否ヤニ關シテハ「リヒタル民ハ消極的ニ論結シタレトモ余輩ハ我民事訴訟法ニ何等ノ明文ナキヲ以テ執達吏カ其代理人ヲ以テ行動スルコトヲ得ルト同シク管理人亦其代理人ヲ以テ管理ノ爲メニ行動スルコトヲ得ルト主張セント欲ス其他管理人ハ債務者ノ補助ヲ求メ家計ニ熱達シタル人ヲ雇入ルルコトヲ得ルハ疑ナキ所ナリ蓋シ此等ハ強制管理ヲ全ウスルニ有益ナルモノナレハナリ管理人ノ性質及ヒ其權限

管理人ハ執行裁判所ノ指揮及ヒ監督ノ下ニ於テ管理行為ヲ爲ス管理行為ハ執行ノ目的物ノ經濟上ノ狀態ヲ維持シ通常ナル收益ヲ爲スヲ目的トス故ニ管理人ハ自ら執行ノ目的ヲ管理シ又ハ賃貸借ノ如キ方法ニ依リテ收益ヲ爲シ果實ノ賣買ヨリ生スル代金請求權、保險金額請求權ノ如キ差押權ノ下ニ在ル請求權ヲ主張シ又管理ニ屬スル請求ニ付テノ訴ヲ提起シ或ハ管理ノ目的物ニ關スル見込アル訴訟ヲ受理セサルヘカラス

執行裁判所ノ指揮ハ管理ノ方法ニ付キ疑アルカ若クハ爭アル場合ニ於
テ當事者若クハ管理人ノ求ニ依リ裁判ヲ爲スヘキ旨ヲ意味シ執行裁判所カ
事大小トナク管理行爲ニ干渉スルコトヲ意味スルモノニ非ス執行裁判所カ該
裁判ヲ爲ス以前ニ於テ債權者及ヒ債務者ヲ審訊スルハ當然ニシテ又適當ナル
場合ニ鑑定人ヲ立會ヘシムルハ事理ニ適シタルモノタリ該指揮ニ關スル裁判
ハ之ヲ言渡シ且ツ調査ニ記載セタルトキハ決定ノ形式ヲ以テ之ヲ爲シ且ツ當
事者及ヒ管理人ニ送達セタルヘカラス(第二四五條第五四三條而シテ該裁判ニ
對シテハ當事者ノミカ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得管理人ハ利害
關係ナキヲ以テ斯ル權利ナシ(第四六六條第五八條却テ執行裁判所ノ指揮ニ
拘束セラレ之ニ適合セタル當事者ノ申立ヲ遵守スルノ義務ナシ然レトモ管理
ノ範圍ニ屬スル管理人ノ第三者ニ對シテ爲シタル行爲ハ執行裁判所ヲ指揮ニ
反シタルノ故ヲ以テ效力ヲ有セタルモノニ非ス唯執行裁判所カ其指揮命令ノ
強行並ニ其違背ノ爲メニ管理人ニ對シ二十圓以下ノ過料執行罰ヲ言渡シ又ハ
其職ヲ免スルノ原因ト爲ルノミ過料ヲ命シタル裁判ニ對シテハ管理人カ即時

抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク(裁判前ニ管理人ヲ審訊スルヲ適當トス又免職ノ裁判
ハ管理人ノ外當事者ニモ亦送達セタルヘカラス蓋シ當事者ハ該裁判ニ對シ即
時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘクレハナリ(第七一二條普通面不動産強制執行法第一
四四條獨逸不動産強制賣法第一五三條)

執行裁判所ノ業務施行ニ付テノ監督ハ管理人ノ法規ノ違背職務ノ怠慢ヲ豫防
シ又ハ之ヲ譴責シ其管理人ノ行爲カ不適當ナルカ若クハ不完全ナリト認メタ
ル場合ニ管理ニ干渉スルニ在リ執行裁判所ハ監督權ノ代用トシテ管理人ニ對
シ計算書第七一五條報告書其他帳簿書類等ノ提出ヲ求メ又財産ノ狀況ヲ調査
スルコトヲ得執行裁判所ハ此調査ノ結果トシテ其他當事者又ハ利害關係人ノ
申立ニ因リテ管理ヲ調査スルノ機會ヲ得ルモノタリ又執行裁判所ハ過料又ハ
免職ニ依リテ監督ノ行使ヲ有效ナラシムルノ權利ヲ有シ且ツ必要ノ場合ニ義
務ヲ負フ(業務ノ施行)

執行裁判所ハ管理人ノ勞務ニ對シテ與フヘキ報酬額ヲ定ム蓋シ無報酬ニテ適
當ナル管理人ヲ任命スルコトハ不能ナルヲ以テ法律ハ管理人ニ適當ナル報酬

[illegible]

(二) 民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リ父カ胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ在リテハ認知者ハ母ノ氏名職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルゴトヲ要ス(第八一條)

(三) 民法第八百三十條及八百三十一條ノ規定ニ依リ子母又ハ子ノ直系卑屬ノ承諾ヲ要ス場合前第二ノ(二)ノ第二乃至第四參照ニ於テハ屆出人ハ屆書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ屆書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ヲ署名捺印セシムルコトヲ要ス第八二條

(第三) 遺言ニ依リ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ノ手續
遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ效力ヲ生シタ
ル日即チ遺言者死亡ノ日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ
届出ツルモノトヲ要ス

右ノ届書ニ記載スヘキ事項及ヒ此届書ニ添附スヘキ書面ハ前(第二)ノ(一)(二)及ヒ
(三)ニ説明シタル所ト同シ但シ此場合ニ在リテハ前(第二)ノ場合ト異ナリ届出キ
依リテ通知ヲ爲スニアラスシテ遺言ニ依リテ爲シタル所ヲ認知ニ付キ届出ヲ爲ス
モノナレバ故ニ届書ハ遺言カ效力ヲ生スル時期即チ遺言者ノ死亡ノ年月日

(第四) 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキ
父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ母ノ承諾アルトキハ之ヲ認知スルヲ得ルコトハ既に
述ヘタリ

胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一箇月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但シ遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(第八四條)

(注意) (イ) 出生届出義務者トハ胎内ニテ認知セラレタル子カ生命ヲ保有シテ分娩スルニ於テハ其出生ノ届出ヲ爲スヘキ義務アル者ヲ謂フ。

胎内ニ在ル子ハ父并母之ヲ認知スルコトヲ得ヘタ父カ認知シタル後其子
カ出生スルトキハ庶子ナリ體テ茲ニ出生届出義務者ト謂フハ庶子出生ノ場
合ニ於ケル届出義務者ヲ謂フ

(四) 胎内ニ在ル子ヲ認知シタル場合ニ在リテハ認知ハ出生ノ時ヨリ其效力
ヲ生スルモノナリ然ルニ子カ死體ニテ分娩スルトキハ認知ハ效力ヲ生スル
コトナキニ至ルヲ以テ認知ノ登記ノ取消ヲ申請セシムルナリ

第五節 裁判上ノ認知

(一) 子其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シ認知ヲ請求ス
ルコトヲ得ヘタ(民法第八三五條此請求ハ人事訴訟手續法第二章ノ規定ニ從ヒ
訴ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナリ訴ヲ以テ認知ヲ請求シタルトキハ
原告勝訴ノ判決ヲ確定ニ因リ父又ハ母カ認知ヲ爲シタルモノト看做サル
(二) 戸籍法ニハ私生子認知ノ届出ニ關シ前(第二)ニ說明シタル認知ヲ爲ス爲メ
ノ届出ト前(第三)ニ說明シタル遺言ニ依ル認知ノ届出トニ付キ規定シタルノミ
ニテ判決ヲ確定ニ因ル認知ニ付タル届出ヲ爲スヘキ者ハ規定ナシ

届出判決ノ確定ニ因ル認知ニ付タル届出ノ規定ナキカ故ニ此種ノ認知ニ付テ
ハ身分登記ヲ受タルニ由ナシ蓋シ戸籍法ノ一大缺點ナリ

第五節 養子縁組ニ關スル届出

(第一) 總論

(一) 本節ニ於テハ養子縁組ニ關スル届出即チ戸籍法第二章第五節ノ規定ヲ説
明スヘシ

(二) 養子縁組ニ關スル實體上ノ要件ハ左ノ如シ

第一 成年ニ達セサル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス(民法第八三七條)
第二 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス(民法第八三八條)
第三 法定ノ推定家督相繼人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得
ス但シ女婿ト爲ス爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス(民法第八三九條)
第四 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス後見人ノ任務を終了シタル
後未タ管理ノ計算ヲ終ラサル間亦同シ但シ次ノ(三)ノ場合ニハ此限ニ

在ラス(民法第八四〇條)

第五 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ルコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ是ル(民法第八四一條)

第六 前第五ノ第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ心神喪失其他ノ事由ニ因リ其意思ヲ表示スルコト能ハラシトキハ他ノ一方ハ夫婦雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得(民法第八四二條)

第七 法定ノ推定家督相續人ハ縁組ニ因リテ他家ニ入ルコトヲ得ス(民法第七四四條第一項)

(注意) 法定ノ推定家督相續人ト雖モ其家ニ在ル者ノ養子ト爲ルヲ妨クス第八 戸主ハ隱居ヲ爲シ又ハ其家ヲ廢スルニ非サレハ養子ト爲ルコトヲ得ス但シ其家ニ在ル者ノ養子ト爲ルハ此限ニ在ラス(養子ト爲ルコトハ戸主權喪失ノ原因ニ非サルカ故ナリ)

第九 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得但シ繼父母又ハ嫡母カ子ニ代リテ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第八四三條)

第十 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第八四四條)

第十一 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ妻カ夫ト共ニ養子トシテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス(民法第八四五條)

第十二 前第九乃至第十一ノ場合ニ於テ父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ承諾又ハ同意ノミヲ以テ是ル父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ子カ未成年者ナルトキニ限り其後見人及ヒ親族會ノ承諾又ハ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第八四十六條第一項ニ依リ民法第七七十二條第二項第三項準用)

第十三 前第十條第十一ノ場合ニ於テ繼承母又ハ嫡母女子ノ縁組ニ同意セザルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ縁組ヲ成スコトヲ得民法第八百四十六條第二項ニ依リ民法第七百七十三條準用)

第十四 禁治產者カ縁組ヲ爲スニハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス民法第八百四十七條ニ依リ民法第七百七十四條準用)

第十五 家族カ縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第七五〇條第一項)

第十六 婚姻又ハ縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ラントスルトキハ嫡家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第七四一條第一項)

(三) 養子縁組ハ要式ノ意思表示ニシテ其方式ニ二種アリ左ノ如シ

第一 養子縁組ハ養子ヲ爲ス者養子ト爲ル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ戸籍吏ニ届出タルコトヲ要ス(民法第八百四十七條ニ依リ第七百七十五條準用)

第二 養子ヲ爲ス者ハ遺言ヲ以テモ其意思ヲ表示スルコトヲ得遺言ノ方式等ニ付テハ民法相續編第六章參照此場合ニ於テハ遺言執行者民法第一一〇八條乃至第一一二條養子ト爲ルヘキ者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ效力ヲ生シタル後口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ遲滞ナク戸籍吏ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス(民法第八四八條)

注意 (イ) 此場合ニ在リテハ養子ヲ爲ス者ノ意思ハ遺言ヲ以テ之ヲ表示シ養子ト爲ル者ノ意思ハ戸籍吏ニ對スル届出ニ依リテ之ヲ表示ス

(ロ) 遺言ハ通常ノ場合ニ在リテハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス然レトモ遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ在リテハ遺言者ノ死亡後條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス(民法第一〇八七條)

尙ホ養子縁組ノ届出ニ具備スベキ戸籍法上ノ要件ニ付テハ次ノ第二ニ之ヲ說明ス

(四) 前(三)ノ第一ノ場合ニ在リテハ戸籍吏カ届出ヲ受理シタルトキハ其時ヨリ縁組ノ效力ヲ生シ(民法第八百四十七條ニ依リ第七百七十五條準用前(三)ノ第二)

ノ場合ニ在リテハ戸籍吏カ届出ヲ受理シタルトキハ養親ノ死亡ノ時ニ過リテ

縁組ノ效力ヲ生ス同法第八四條第二項
縁組ノ效力トシテ養子ハ養親ノ家ニ入り養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス同法

第八六〇條第八六二條何キ民法第七百二十七條等ヲ参照スヘシ

(第二) 届出ノ手續

(一) 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス第

九〇條

(二) 養子縁組ハ雙方カ届出ニ依リテ其意思表示ヲ爲ス場合ニ在リテハ養親養子及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ其届出ヲ爲スヲ要シ養親カ遺言ニ依リテ其意思ヲ表示シ養子カ届出ニ依リテ其意思表示ヲ爲ス場合ニ在リテハ遺言執行者養子及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ其届出ヲ爲スヲ要スルコトハ既ニ前第二

(三) ニ於テ之ヲ説明シタリ

(注意) 配偶者アル者カ配偶者ト共ニ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ル場合前第二ノ(二)ノ第五參照ニ在リテハ配偶者ト共ニ養子縁組ノ届出ヲ爲スヲ要ス

然ルニ養子ト爲ル者ノ(一)父母(二)其一方又ハ(三)後見人及ヒ親族會カ養子ト爲ル者ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス場合前第二ノ(二)ノ第九及ヒ第十二參照ニ於テハ

養子ト爲ル者ハ自ラ縁組ノ承諾ヲ爲スニアラシテ父母其他ノ者カ之ニ代リテ承諾ヲ爲スモノタリ隨テ此場合ニ在リテハ養子ト爲ル者ヲ以テ届出人ト爲スコト能ハサルカ故ニ戸籍法ハ第八十六條ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケ養子ニ代リテ承諾ヲ爲ス者ハ養子ニ代リテ縁組ノ届出ヲ爲スヲ要スルコトトセリ

次ニ夫婦ノ一方カ夫婦雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合前第二ノ(二)ノ第六參照ハ夫婦ノ他ノ一方カ心神喪失其他ノ事由ニ因リ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキナルカ故ニ此場合ニ在リテハ夫婦雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス者ハ夫婦雙方ノ爲メニ届出ヲ爲セハ足り夫婦雙方ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要セス

(三) 養子縁組ノ届出ハ口頭ヲ以テ又ハ署名シタル書面届書ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ルコトハ既ニ前第二ノ(三)ニ於テ之ヲ述ヘタリ次ノ(四)ニ於テ書面ヲ以テスル届出ノ手續ヲ説明シ(五)ニ於テ口頭ヲ以テスル届出ノ手續ヲ説明スヘシ

(四) 縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(戸籍法第八五條)

- (一) 養親及ヒ養子ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地(養父母ハ繼父母ト稱母トヲ包含ス)
(二) 養子ノ養父母ノ氏名職業及ヒ本籍地(養父母ハ繼父母ト稱母トヲ包含ス)
(三) 養親又ハ養子ノ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地
(四) 養子ノ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名職業及ヒ本籍地
(注意) 第四號第五條第二項ノ事項ヲ記載セシムルハ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子縁組ヲ爲スニハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意前第二(二)ノ第十六參照ト婚家又ハ養家及ヒ實家ニ在ル父母ノ同意前第二(二)ノ第十一參照トヲ得ルコトヲ要スルカ故ナリ
然ルニ婚家又ハ養家ヨリ養子縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ第一號乃至第三號ノ事項ノ外婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名職業及ヒ本籍地ヲモ記載スルヲ要スト爲スニ止メ實家ノ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地ヲモ記載スルヲ要スト爲サザリシハ立法上ノ缺點ナリト信ス
配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合前第二(二)ノ第十六參照ニ於

テハ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス(第八八條)

民法第七百四十一條第一項第七百五十條第一項第八百四十一條第二項及ヒ第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戸主父母配偶者養見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合前第二(二)參照ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(第八七條)

養親ト爲ル者カ遺言ニ依リテ縁組ノ意思ヲ表示シタル場合ニ在リテハ届書ニ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且ツ之ニ養子ニ關スル遺言ノ原本ヲ添附スルコトヲ要ス(第八九條)

(注意) 遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載セシムルハ既ニ述ヘタル如ク遺言者即チ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ縁組ノ效力ヲ生スルカ故ナリ(民法第八四八條)

以上ニ述ヘタル外届出人ノ署名捺印ヲ要スルコト(成年ノ二人以上ノ證人ハ證人タルコトヲ記載スルコトヲ要ス)等既ニ本講義第四章第一節ニ説明シタル

身分ニ關スル届出ノ通則ハ養子縁組ノ届書ニモ適用セラルベキコトハ言フ域
タス

(五) 口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ在リテハ届出ニ關スル通則ニ從フトキハ届
出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述スルコトヲ要スルモ(第五四
條)届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサレ
トキハ代理人ヲ差出スコトヲ得ルモノトス第五八條然ルニ養子縁組ノ親族間
係相續ノ順位等ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキモノナルカ故ニ特ニ其手續ヲ鄭
重ニシ口頭ヲ以テ縁組ノ届出ヲ爲ス場合ニ付テハ口頭ヲ以テ他ノ届出ヲ爲ス
場合ト異ナリ必ス届出人カ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ自ラ届出ヲ爲スコトヲ要
シ疾病其他ノ事故アルトキト雖モ代理人ヲ差出スコトヲ許サス(第九四條民法
第八四七條)

口頭ヲ以テ縁組ノ届出ヲ爲ス場合ノ手續ニ付テハ書面ヲ以テ縁組ノ届出ヲ爲
ス場合ノ手續ヲ準用ス(第九三條)

本講義第四章第一節ニ說明シタル口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス手續ノ通則ハ代理人

ニ關スルコトヲ除ク外口頭ヲ以テスル縁組ノ届出ニモ亦適用セラル

戸籍定ハ縁組ニ前第一ノ(二)ニ掲ケタル要件ヲ具備セサルコト及ヒ其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニアラサレハ届出ヲ受理スルヲ得ス但シ縁組カ民法第七百四十一條第一項又ハ第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ戸籍定ハ注意ヲ爲シタルニ拘ラズ當事者カ其届出ヲ爲サント欲スルトキハ此限ニ在ラズ民法第八四九條)

第四 組織力無効ナルトキ又ハ取消サレタルトキ

(一) 繰組方前第二ノ(二)ニ掲ケタル要件ヲ具備セス又ハ其他ノ法令ニ違反スル場合ト雖モ月籍吏カ若シ届出ヲ受理スルトキハ繰組ノ效力ヲ生ス繰組カ無効ナルハ左ニ掲ケル二箇ノ場合ニ限ル(民法第八五一條)

人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ

二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲サルトキハ届出ナキトキ又ハ當事者ノ一方

ノミヨリ届出ヲ爲シタルトキハ無効ナリ然レドモ雙方ヨリ届出ヲ爲シ戸

籍吏カ受理シタル場合ニ於テハ成年ノ二人以上ノ證人ト共ニシタルトキ

又ハ戸籍法ニ規定シタル届書ニ記載スベキ事項ニ欠缺アルトキト雖モ縁

組ハ無効ニアラス

(二) 縁組カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ若クハ法令ニ違反シタルトキト雖モ

當事者自ラ之ヲ取消スコトヲ得ス縁組ハ民法第八百五十三條以下七條ニ揭ゲ

タル場合ニ限リ裁判所ノ判決ヲ以テノミ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトス

(三) 縁組ノ届出ヲ爲シ戸籍吏カ之ヲ受理シタ身元登記ヲ爲シタル場合ニ於テ

縁組カ無効ナルトキハ其届出人ノ全員ヨリ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シ

テ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス第九一條 届出カ受理タルトキハ其届

届出人ノ全員カ登記ノ取消ヲ申請スルコトニ付キ一致セサルトキハ申請ヲ爲

サント欲スル者ハ之ヲ爲スコトヲ首セサル者ニ對シ縁組ノ無効ノ訴ヲ提起シ

其判決カ確定シタル後次ノ(四)ノ手續ニ依リ登記取消ヲ申請スルモノトヲ要ス届

校外生規則摘要

- 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 今年ヲ以テ完了セサルトキハ號外ヲ發ス講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講義會、討論會ニ出席傍聴スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付ト質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計課宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十四年五月十六日印刷

明治三十四年五月二十日發行

東京市芝區西ノ久保町三丁目三十八番地

編輯者 小田幹治郎

東京市芝區西ノ久保町三丁目三十八番地

印刷者 金子藏五郎

東京市芝區西ノ久保町三丁目三十八番地

印刷所 金子活版所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)